

『江嶋家文書』 『永野文庫』 目録



愛媛大学附属図書館 編

『江嶋家文書』 『永野文庫』 目録

愛媛大学附属図書館 編

『江嶋家文書目録』『永野文庫目録』刊行に寄せて

附属図書館長 柏谷増男

愛媛大学附属図書館は、京都卜部神道家であった鈴鹿三七氏の旧蔵書七千余点の鈴鹿文庫をはじめとして、日次紀事、西條誌稿本、多田満中（絵巻）、米山日記などの貴重書十数点を所蔵している。これらの貴重な文献は、学問的な資料として専門分野の研究者に活用されると共に、できる範囲内で一般に公開されるべきであり、その手はじめとして、本目録を刊行するものである。

『江嶋家文書』は、今治藩家老江嶋家の文書であり、初代為信は、「仮名草子」と呼ばれる『身の鏡』『理非鏡』を執筆し、これらは当時のロングセラーとなっている。また、談林俳諧にも親しみ、『山水十百韻』を著し、西山宗因、井原西鶴と親交があるなど愛媛を代表する文人であった。

文書は、江戸初期から明治期までにわたり、当時の今治を知る第一級資料である。江嶋家の御子孫が西宮に在住され、手元に災禍を免れてあることが判明、平成十三年七月愛媛大学附属図書館に寄託されることとなった。

『永野文庫』は、小松藩藩医永野家の直系に所蔵されていた古医学書と、歴代永野家当主の数人による記録類からなる。おもに江戸中期から明治にかけての版本と写本であるが、梅寿刊行の江戸初期の医学書や、蘭学関係のものも含まれている。永野文庫は、愛媛の医学史のみならず、日本医学史を考える際にも今後大いに活用されるべき好個の文庫である。平成四年に御子孫永野司一氏により愛媛大学附属図書館に寄贈された。

この度、『江嶋家文書目録』『永野文庫目録』が教育学部福田安典先生のご努力により刊行されることになった。福田先生には、平成十一年に編集・作成された『堀内文庫』に次いで、目録作成の労をとっていただいた。

従来これらの貴重書は、保存を重視し、破損をおそれるあまり一部の専門家のみ閲覧されていたが、近年の情報技術の発達により、電子媒体を通じて広く一般の利用に供することが可能となった。愛媛大学附属図書館においても福田先生を含めてデジタルコンテンツ研究会を組織し、平成十三年度に最初の試みとして『西條誌稿本』のCD-ROMを作成、地域の人々に大いに活用してもらっているところである。今回の『江嶋家文書』についても、地元今治市とも協力しながら、資料の電子化による情報発信に努めたい。

この目録が、各方面で利用され、学術研究や地方文化交流に役立てていただければ幸甚である。最後に本目録の編集刊行に学長裁量経費をいただいたことを付しておきたい。

凡例

目録記載は原則として以下の順とした。

資料番号

認定作品名

形式（一紙、一枚、写本、刊本、本の形式、表紙の種類（例、共表紙）などの区別）
分量（複数の場合のみ、また冊子の場合は丁数）

サイズ 縦×横（単位はcm）

外題（ある場合のみ【外題】と明記、直書なども記す）

内題（ある場合のみ【内題】と明記）

「成立」（ある場合のみ【成立】と明記）

「筆者」（ある場合のみ【筆者】と明記）

「備考」（ある場合のみ【備考】と明記）

「翻刻」（ある場合のみ【翻刻】と明記）

「内容」（必要に応じて【内容】と明記）

目次

江嶋家文書目録

一 今治とその周辺の地誌関係	1
二 久松家・今治藩関係	6
三 江嶋家関係	15
○系図	
○墨印状	
○勤仕覚書	
○江島屋敷・墓所見取り図	
○進上証書等覚書	
○明治以降の証書関連	
○その他書簡・書付	
四 諸芸	52
○俳諧・和歌	
○漢詩文	
○兵法	

- 書籍
- 絵画・工芸品
- その他

五 生活資料 70

○行事

○法律

○婚礼

○金銭

○その他

六 幕長戦争関係 96

七 その他 103

永野文庫目録 113

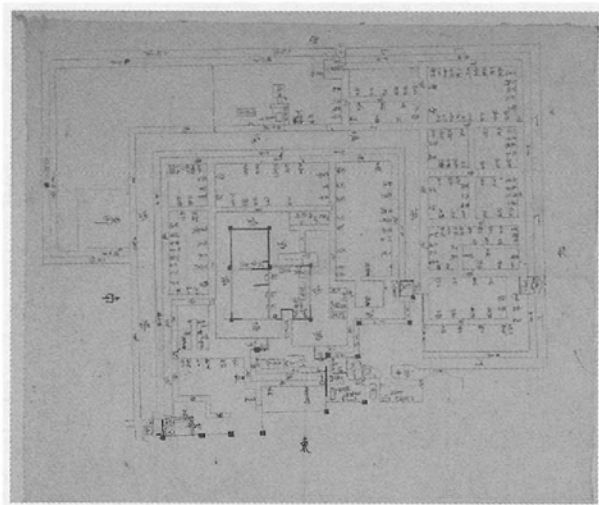
解説 157

一、
今江浦城下屋敷見取録

江嶋家文書目錄

一 今治とその周辺の地誌関係

一―1 今治藩城下屋敷見取図



一紙 四七・五×四一・四

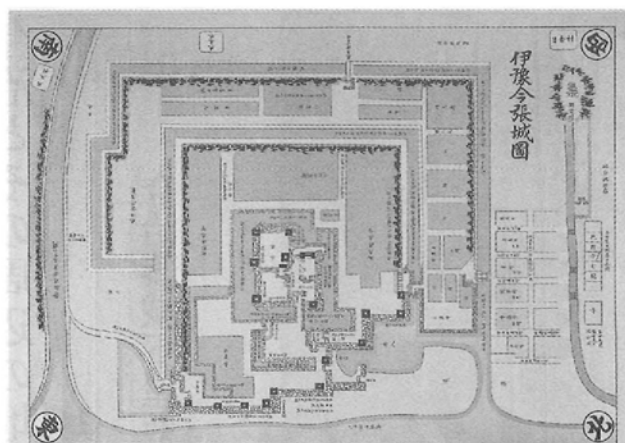
【備考】一―3の絵図との相違は一―3の【内容】参照。
裏に「為親」の印あり。

一 一 2 今治藩城下屋敷見取図（部分）

一紙 一六・一×二九・一

【備考】一 一 1の地図の北及び北西部分とほぼ一致（住民はやや異なる）。

一 一 3 天保年間の伊予今治城絵図



複製一紙 三九・四×五四・〇

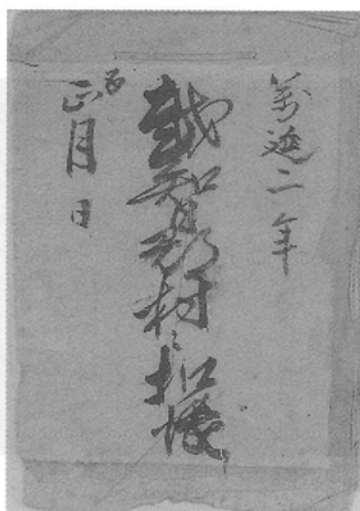
【備考】天保年間の伊豫（今張）今治城絵圖。

【内容】この絵図からは、当時今治城には二つの外堀があり、海とつながっていることが分かる（現在では外堀は埋め立てられ、内堀しか残っていない）。舟入はある程度原形を保ちつつ、現在の今治港の一部になっている。

現在の地名との比較

- ①東側の門があった周辺↓東門町
- ②最も外側の堀の東南部（円環状になっておらず、せき止められる形になっている）↓現在の枝堀町という地名と関連があるか。
- ③北東の侍屋敷周辺↓通町（町人が辰ノ口門から大手橋を渡り、城内へ入る道にあたることより従来から通称されていた）
- ④北西部の片原町、中浜町、風早町、本町、米屋町、室屋町は現在と同様。

一 4 萬延二年越智郡村々扣帳



写本一冊 横本 仮綴じ 共表紙 一九・二×一三・五 七丁

【外題】(直書)「萬延二年越智郡村々扣帳 酉止月日」

【内容】越智郡の村名が記されている。

【内容】二月四日興行の興行の事前帳簿と作られる。

一冊 一六・六×四二・六

一 5 二月四日興行の興行の事前帳簿と作られる。

一―五 二月四日鈍川村御鹿狩待場所并追順扣

二月四日鈍川村
御鹿狩待場所并追順扣
一 鹿の跡の大きさを測り、
一 鹿の跡の山を大回
一 鈍川村の待場所
二 鹿の待場所
一 鹿の跡の大きさを測り、
一 鹿の跡の山を大回
一 鈍川村の待場所
二 鹿の待場所
一 鹿の跡の大きさを測り、
一 鹿の跡の山を大回
一 鈍川村の待場所
二 鹿の待場所
一 鹿の跡の大きさを測り、
一 鹿の跡の山を大回
一 鈍川村の待場所
二 鹿の待場所

一紙 一六・六×四三・六

【内容】二月四日興行の鹿狩の手順が記されている。

萬葉二平御鹿狩待場所并追順扣

一 16 脇屋義助卿縁起

一卷 三〇・三×二四一・六

【成立】元禄二己巳年

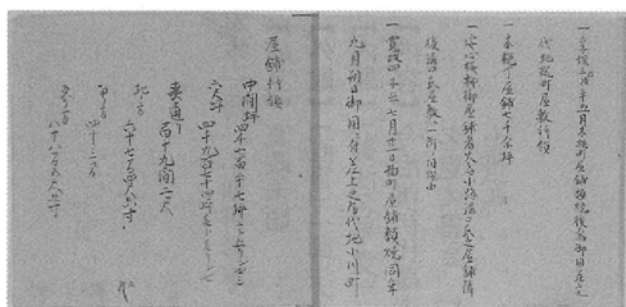
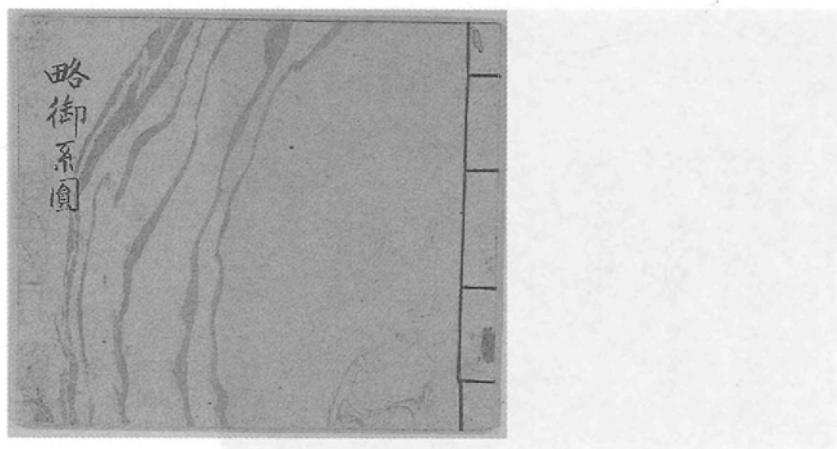
【筆者】江嶋長左衛門為信(為信自筆資料)

【内容】南朝の忠臣、新田義貞の弟・脇屋義助の伝記。出自から挙兵、南朝の武将としての活躍、伊予に下向し病没するに到るまでが漢文体で記され、卷末には縁起奉納の経緯と漢詩一編が付されている(今治市国分寺脇の丘には義助の墓があり、寛文九年、当時の国分寺住職法印快政らによって修復、再建されている)。「今夜話」等によると、元禄二年、為信は玉垣、石灯笼二基を造り、国分寺に脇屋卿縁起一卷、漢詩一卷を奉納したとされている。
当資料一16は、その脇屋卿縁起の一部で、為信が書いた部分の草稿段階のものか。

脇屋義助卿縁起 巻第一
自筆 漢文 三〇・三×二四一・六
元禄二己巳年
脇屋義助卿縁起 漢文 三〇・三×二四一・六
元禄二己巳年
脇屋義助卿縁起 漢文 三〇・三×二四一・六
元禄二己巳年

脇屋義助卿縁起 漢文 三〇・三×二四一・六
元禄二己巳年
脇屋義助卿縁起 漢文 三〇・三×二四一・六
元禄二己巳年
脇屋義助卿縁起 漢文 三〇・三×二四一・六
元禄二己巳年

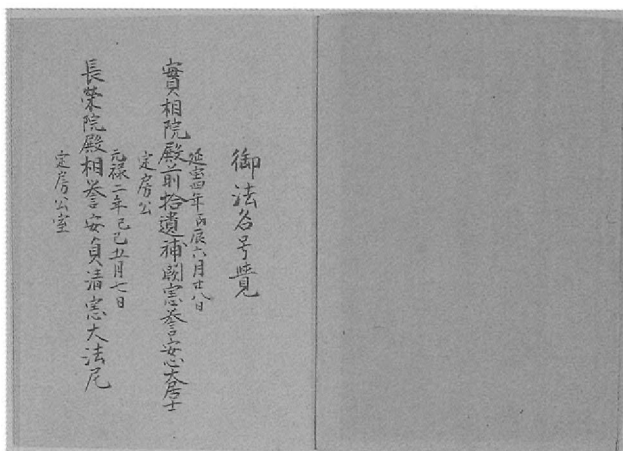
二一二 久松家系図



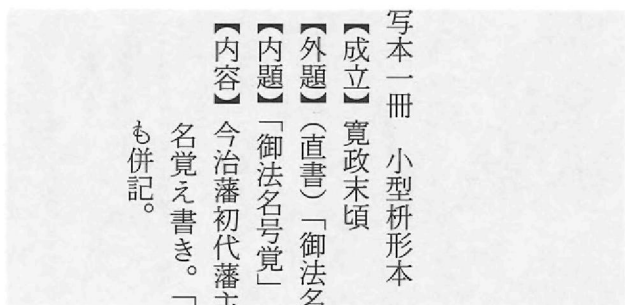
写本一冊 小型枳形本 墨流し表紙 一〇・四×二一・〇 一五丁
【外題】（直書）「略御系図」
【備考】 二一1と同内容だが、二一1の方がやや詳しい。但し、二一1は草稿本で、当資料が清書本。
【内容】 「久松系図」「戒名享年」「今治之城」「同 間敷」「明細積」「今治地方」「江戸糀町神屋鋪」「品川下屋敷」「深川屋鋪」

久松家系図
 一、寛政四年七月廿五日由町屋鋪設院同平九月朔日御用
 二、本紀丁屋鋪子千名坪
 三、今治御用屋鋪子千名坪
 四、今治御用屋鋪子千名坪
 五、今治御用屋鋪子千名坪
 六、今治御用屋鋪子千名坪
 七、今治御用屋鋪子千名坪
 八、今治御用屋鋪子千名坪
 九、今治御用屋鋪子千名坪
 十、今治御用屋鋪子千名坪
 十一、今治御用屋鋪子千名坪
 十二、今治御用屋鋪子千名坪
 十三、今治御用屋鋪子千名坪
 十四、今治御用屋鋪子千名坪
 十五、今治御用屋鋪子千名坪

二一三 御法名号



二一四 八外家系図



写本一冊 小型枡形本 共表紙 一一・七×九・一 一四丁

【成立】寛政末頃

【外題】(直書)「御法名号」

【内題】「御法名号覚」

【内容】今治藩初代藩主定房から、寛政十一年の六代藩主定休までの法名覚え書き。「松山御家」「白川御家」「新橋御家」の法号略記も併記。

前編式「二五可辨御所屋敷」「品川不屋敷」「紫川屋敷」

【内容】「八外家系図」「知名草紙」「合意之録」「同 問題」「即断辭」「今

草辭本ナ、松山御家新書本。

【前巻】二一・一〜同内容式、二一・一の式の中「結」の、中、二一・一

【後巻】(直書)「御法名号」

写本一冊 小型枡形本 墨紙「表紙」一〇・四×二一・〇 一五丁

二一四 久松家戒名覚

一紙 一五・四×四一・四

二一五 久松家戒名覚

一紙 一六・一×七二・二

二一六 久松家戒名覚

一紙 一六・二×二二・六

【内容】寛延二平四月十五日、今高藤王五郎の冥會掛紙にこの賞書。
一冊 一五・六×一八・三

二一七 寛延二平四月十五日賞書

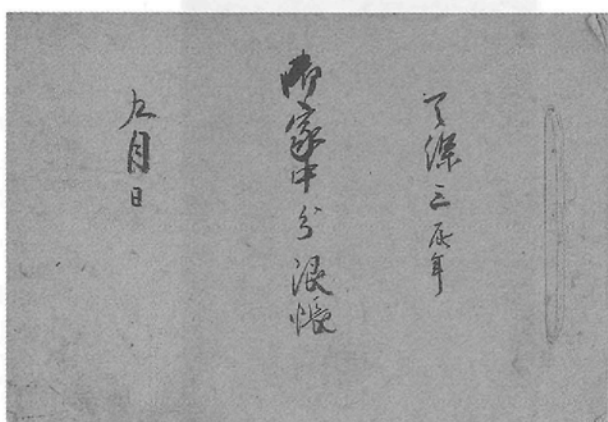
二一七 寛政二年四月十五日覚書

寛政二庚戌年四月十
五日
定剛様御家督御
禮被仰上以書
公方様御目見云
仰付御太刀馬代獻
上之折紙中蒙書
有之御當番中差
者板倉周防守中
辰

一紙 一五・六×一八・三

【内容】寛政二年四月十五日、今治藩主定剛の家督相続についての覚書。

二一八 天保三年御家中分限帳



写本一冊 横本 共表紙 一四・二×二〇・六 一八丁

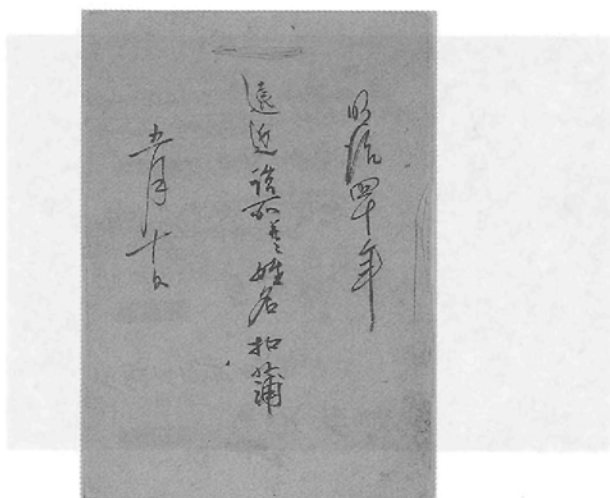
【外題】(直書)「天保三辰年 御家中分限帳 九月日」

【表題】(直書)「即前四十平註日十日御取替酒共二冊各四冊」

写本一冊 大黒紙 四冊 共表紙 一三・六×一八・五 四丁

二一〇 即前四十平取替酒共二冊各四冊

二一九 明治四十年遠近詰所并姓名扣簿



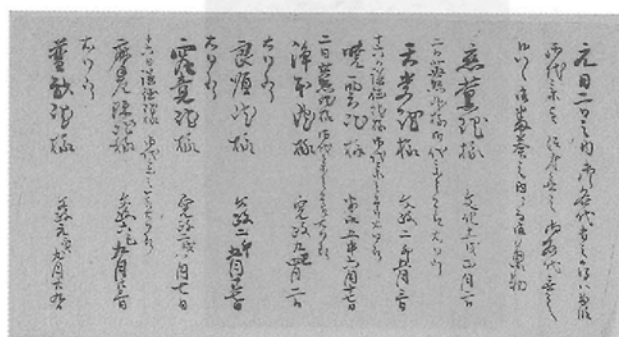
写本一冊 大黒帳 仮綴じ 共表紙 一三・六×一九・五 四丁

【外題】(直書)「明治四十年五月十日遠近詰所并二姓名扣簿」

【尺牘】(直書)「大尉三平 睡室中台廻書 式目日」
写本一冊 冊本 共表紙 一四・二×二〇・六 一八丁

二一八 天尉三平睡室中台廻書

二一10 名代代参覚



一紙 一六・九×三三・二

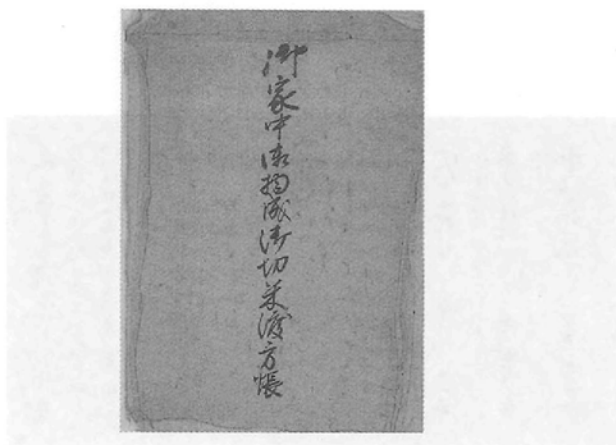
【内容】元日二日に、名代として代参する者を記した書き付け。

【書き】文中に「文久三交五日」の付箋あり。

【参照】(自書)「職案中職時如職時米煮式通」

君本一冊 附本 別録) 共去册 一一・六×一六・六 二六丁

二一11 御家中御物成御切米渡方帳



写本一冊 横本 仮綴じ 共表紙 一一・九×一六・九 二六丁

【外題】(直書)「御家中御物成御切米渡方帳」

【備考】文中に「文久三亥正月」の付箋あり。

【内容】五頁(口コ)「各升参費」の表紙と「各升参せる各々5兩」の表紙を付す。

一冊 一六・八×二二・二

三江嶋家関係

○系図

三一 1 海老原家系図

海老原左近入文
頼助 陸平令歿之時字治山、谷於
兩所合捕高保貞之頼朝公
於近江國二百町上賜君後
建久七年丙辰八月朔日
大父判官豐後守忠入自陸
賜三郎御下向時信承侍
於陸河二百町自忠入公之
賜之

能登舟
頼重 養父兵乱之時賜陸河二百町
忠義治承侍、時陸河老翁
忠孝公於治河討死之時
高掛付大軍討敵忠孝公
御死骸、肩引掛立送平
陸河二百町自忠入公之
賜之

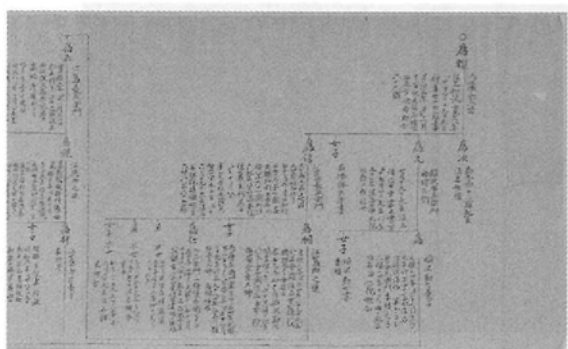
下サレタル事アリ
初代頼朝
為次
内藏助法名和況
為頼
一、江嶋十右衛門中領事、忠久、陸河
御下向、將江嶋破、御覽アリ
海老原左近入頼助、自陸河
御意依、
コトヨリ、君カ行ヘシシカ
江嶋破、波風モナレ
忠久公御感不御、其後本居、
御意テシス、江嶋破、御下
サレタル事、傳、依之内藏助、
江嶋十右衛門、
陸河破、御下向、

一紙 一四・三×一六・三

【内容】江嶋家の源流となる海老原家の家系図。初代左京大夫頼助から為信の父・為頼までの系図が記されており、巻末に島津惟新公からの書面の写しが記されている。

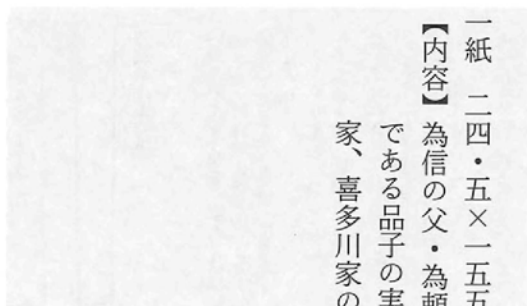
三一 1 海老原家系図

三-2 江嶋家系図



一紙 二四・五×一五五・四

【内容】 為信の父・為頼から為祥までの江嶋家系図。その他、為信の妻である品子の実家松本家の他、塚本家、恵利家、岩村（佐々木）家、喜多川家の系図が記されている。



この書面の写しを添えつけた。

為信の父・為頼までの系図は添えつけたが、巻末に島嶼野村公
【内容】 五嶋家の系図とある紙芝居家の系図、財力式京大夫殿の系図

一紙 一四・三×一六・三

三-3 江嶋家系図

三-1 江嶋家系図

一紙 二四・二×一〇三・二

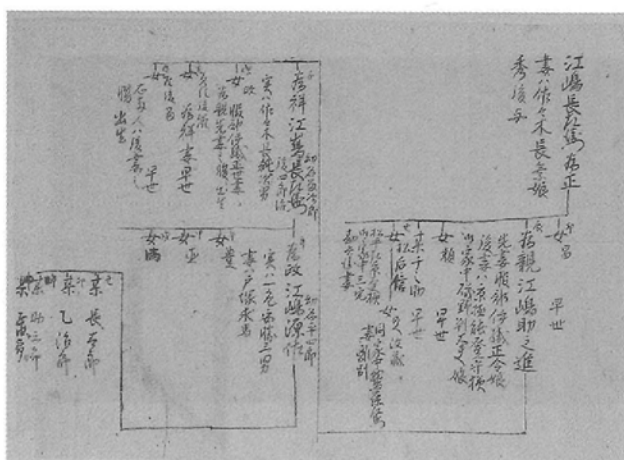
【備考】 付箋あり。

【内容】 三-2と同内容。但し三-2の方が詳しい。当資料は三-2の草稿か。

○系図

三 五嶋家関係

三—4 由緒覚書



一紙 二二・一×三〇・九

【備考】 包み紙あり。外書「由緒覚書」

【内容】 為正から為政までの系図。

家、恵保系図及び、三、〇、一、同野のp.133の系図。

御二姉。五升目高、また備をけり。その御二姉、御本

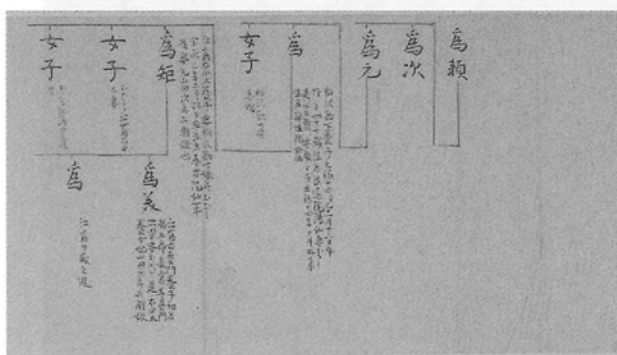
【内容】 高野の六兄、高野の養子式である高野家の系図（三升目から五

【備考】 正玉御遊せり。

一册 一冊・八ノ八四・三

三—五 五御（代家）系図

三一五 江嶋(分家) 家系図



一紙 一七・九×九四・三

【備考】訂正補修あり。

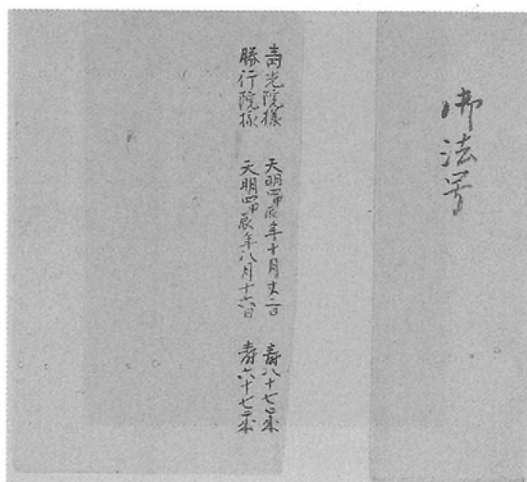
【内容】為信の次兄・為元の養子先である稲沢家の系図(三代目から江嶋に改名)。五代目為々まで記されている。その他には、松本家、恵利家系図など、三一二と同様のものがある。

【内容】為五郎の系図(主家の系図)。

【備考】訂正補修あり。

一紙 一七・九×九四・三

三一六 御法号



一紙 一五・三×九・三

【備考】 包み紙あり。「御法号」

【内容】 天明四年に没した寿光院、勝行院の系図。

紙行寺関係の系図の複製

【内容】 今出藩三万石主御年次録より玉隠具式清門（高司）の系図の

五日附口（玉隠（高司））玉隠具式清門

【附記】 高司百石取付之玉隠具式清門高司御年次録より玉隠具式清門

系

【備考】 高司百石取付之玉隠具式清門（高司）の系図より玉隠具式清門

【備考】 高司百石

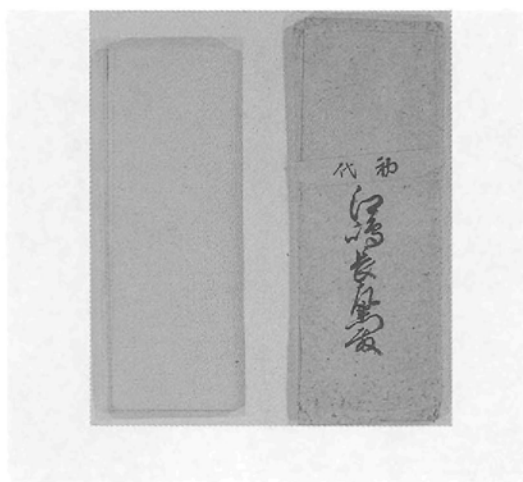
一紙 一三・一×六・二・六

三二一 玉隠六千石御具式清門家取付書

○墨印付

○墨印状

三一七 元禄六年江嶋長左衛門宛知行証



一紙 一二一・七×六三・六

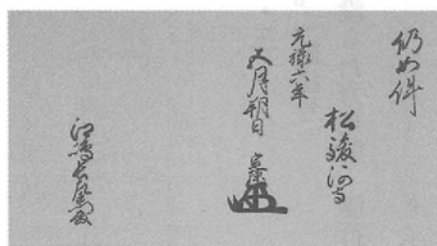
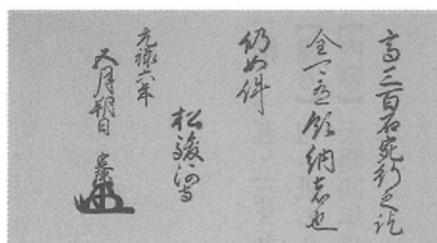
【筆者】松駿河守

【備考】宛名が「江嶋長左衛門殿」包み紙あり。表書「江嶋長左衛門殿」

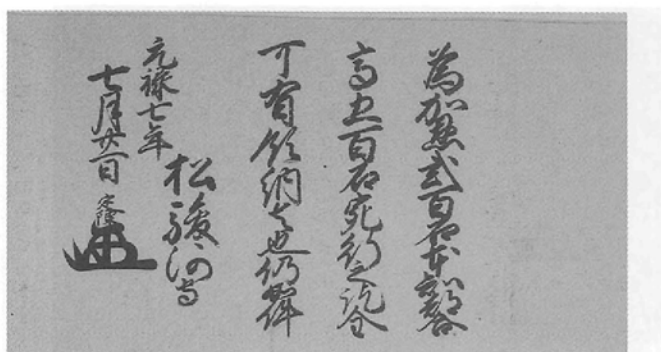
【翻刻】高三百石宛行之証全可有領納者也仍如件／松駿河守／元禄六年

五月朔日 定陳（花押）／江嶋長左衛門殿

【内容】今治藩三代藩主松平定陳より江嶋長左衛門（為信）に三百石の知行を増した際の証書。



三一八 元禄七年江嶋長左衛門宛知行証



一紙 二二・七×六二・九

【成立】元禄七年七月廿一日 定陳

【筆者】松駿河守

【備考】宛名が「江嶋長左衛門殿」包み紙あり。表書「江嶋長左衛門殿」

【内容】今治藩三代藩主定陳より江嶋長左衛門（為信）に二百石加増し、三一七の知行証記載分と合わせて計五百石であることを証した
もの。

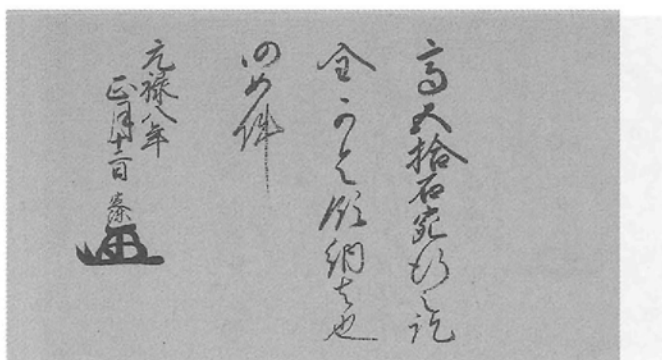
【内容】今治藩三代藩主定陳より江嶋長左衛門（為信）に二百石加増し、

【備考】宛名が「江嶋長左衛門殿」包み紙あり。表書「江嶋長左衛門殿」

【成立】元禄八年七月廿一日 定陳

一紙 二二・六×六四・二

三一九 元禄八年江嶋助之進宛知行証



一紙 一三・六×六四・三

【成立】元禄八年正月十二日 定陳

【備考】宛名が「江嶋助之進殿」包み紙あり。表書「江嶋助之進殿」

【内容】今治藩三代藩主定陳より五十石を与えられた際の知行証。

030

【内容】元禄八年正月十二日、江嶋助之進宛に五十石の知行証が授けられた。表書「高六拾石宛知行証」。

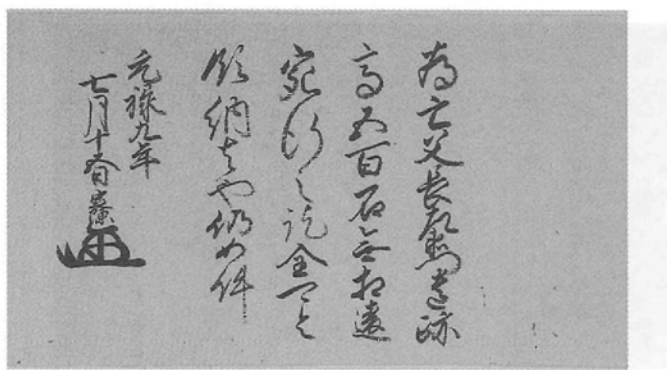
【備考】宛名が「江嶋助之進殿」包み紙あり。表書「高六拾石宛知行証」。

【年月】元禄八年

【成立】元禄八年正月十二日 定陳

【備考】一三・六×六四・三

三一〇 元禄九年江嶋助之進宛知行証



一紙 一三・六×六四・三

【成立】元禄九年七月十五日 定陳

【備考】宛名が「江嶋助之進殿」包み紙あり。表書「江嶋助之進殿」

【内容】亡父長左衛門（為信）の遺跡高五百石を、そのまま息子（為相）に相続させることを証明した知行証。今治藩三代藩主定陳の書。

① 賦り五百石を子のまま相続せしむることを指す。表書

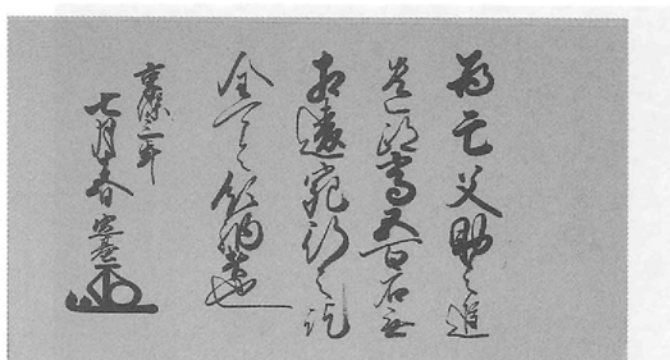
【内容】今治藩四代藩主定基の御二御（為信）へ、亡父助之進（為相）より、

【備考】表書は「江嶋助之進殿」に「臣菅原由」あり。表書「江嶋助之進殿」

【成立】享禄三年七月十五日 定基

一紙 一三・八×六三・三

三―11 享保三年江嶋助三郎宛知行証



一紙 一二・八×六三・三

【成立】享保三年七月十五日 定基

【備考】宛名が「江嶋助三郎とのへ」包み紙あり。表書「江嶋助三郎とのへ」

【内容】今治藩四代藩主定基から助三郎（為正）へ、亡父助之進（為相）の知行五百石をそのまま相続させることを証した書。

江嶋助三郎の知行証は、今治藩四代藩主定基から助三郎（為正）へ、亡父助之進（為相）の知行五百石をそのまま相続させることを証した書である。表書「江嶋助三郎とのへ」

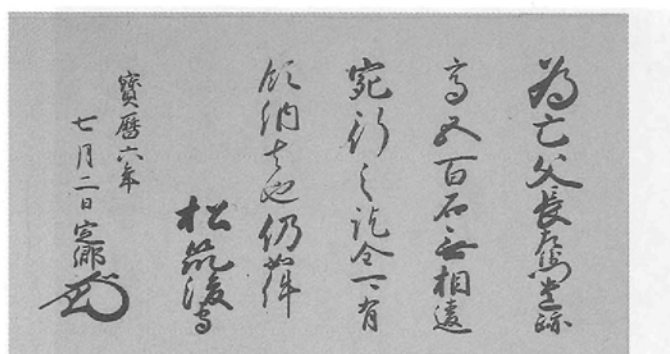
【内容】亡父助之進（為相）の知行五百石を、そのまま承継す（為正）

【備考】宛名が「江嶋助三郎とのへ」包み紙あり。表書「江嶋助三郎とのへ」

【成立】享保三年七月十五日 宣

一紙 一二・八×六三・三

三一 12 宝曆六年江嶋助之進宛知行証



一紙 二二・七×六二・七

【成立】 宝曆六年七月二日 定郷

【筆者】 松筑前守

【備考】 宛名が「江嶋助之進殿」包み紙あり。表書「江嶋助之進殿」

【内容】 今治藩五代藩主定郷より助之進（為親）へ、亡父長左衛門（為正）の知行高五百石を相続させることを証した書。

（別）の知行高五百石の御寄書並に式書。

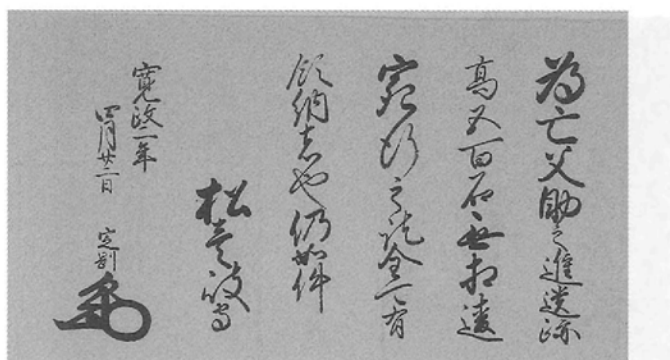
【内容】 今治藩より藩主定郷より宛に書付（為親）へ、亡父助之進（為親）宛に「江嶋助之進殿」宛に書付。表書「江嶋助之進殿」

【備考】 御寄書

【成立】 宝曆二年四月廿二日 宝曆

一冊 二二・八×六三・八

三―13 寛政三年江嶋長左衛門宛知行証



一紙 一二・九×六三・八

【成立】 寛政三年四月廿二日 定剛

【筆者】 松巻岐守

【備考】 宛名が「江嶋長左衛門殿」包み紙あり。表書「江嶋長左衛門殿」

【内容】 今治藩七代藩主定剛から長左衛門（為祥）へ、亡父助之進（為親）の知行高五百石の相続を証した書。

五）の知行高五百石を計略をせむことと云はれり云々

【内容】 今治藩五代藩主宝徳より世に世（為祥）へ、「父兄は左衛門（為

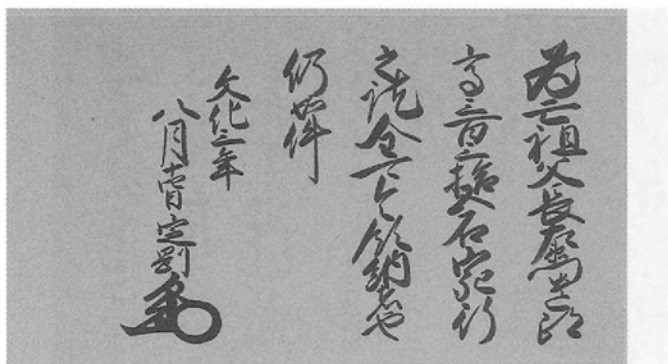
【備考】 宛名が「江嶋長左衛門殿」包み紙あり。表書「江嶋長左衛門殿」

【筆者】 松巻岐守

【成立】 寛政六年十月二日 宝徳

一紙 一二・九×六二・〇

三一14 文化三年江嶋長太郎宛知行証



一紙 二二・六×八二・九

【成立】文化三年八月十四日 定剛

【備考】宛名が「江嶋長太郎殿」包み紙あり。表書「江嶋長太郎殿」

【内容】今治藩七代藩主定剛より長太郎（為善）へ亡父長左衛門（為政）の知行高五百石を相続させることを証した書。

知行高三百十五石を申渡さるることと証した書。

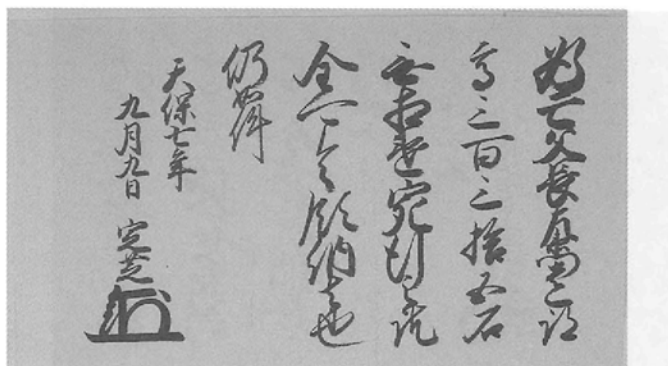
【内容】今治藩八代藩主御平定剛より長太郎（為善）に、京（為善）の

【備考】宛名が「江嶋長太郎殿」包み紙あり。表書「江嶋長太郎殿」

【成立】天保十一年八月廿七日 定剛

一紙 二二・〇×六二・一

三一15 天保七年江嶋助五郎宛知行証



一紙 一三・〇×六三・一

【成立】天保七年九月九日 定芝

【備考】宛名が「江嶋助五郎殿」包み紙あり。表書「江嶋助五郎殿」

【内容】今治藩八代藩主松平定芝より助五郎（為美）に、兄（為善）の知行高三百十五石を相続させることを証した書。

◎知行高五百石を相続させることを証した書。

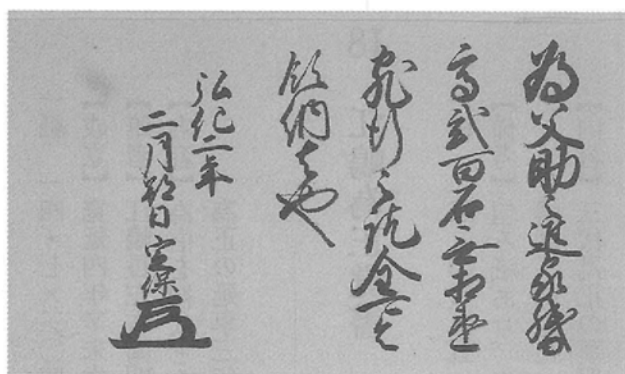
【内容】今治藩十代藩主松平定昌より兄（為善）へ「父兄式後門（為善）」

【備考】宛名が「江嶋助五郎殿」包み紙あり。表書「江嶋助五郎殿」

【成立】文治三年八月十四日 定昌

一紙 一三・六×八二・八

三一16 弘化二年江嶋長太郎宛知行証



一紙 二三・六×六二・八

【成立】弘化二年二月朔日 定保

【備考】宛名が「江嶋長太郎殿」包み紙あり。表書「江嶋長太郎殿」

【内容】今治藩九代藩主定保より長太郎（為知）へ、親（為善）の家督二百石を相続させることを証した書。

三一17 謹封賞書

○謹封賞書

○勤仕覚書

三―17 勤仕覚書

一紙 一四・七×三〇四・三

【成立】寛延四年辛未歳十月

【筆者】江嶋長左右衛門為正

【内容】為信を初代とし、彼が馬廻役として今治藩に召し上げられた寛文八年から、孫にあたる三代為正の延享三年までの、八十四年間にわたる勤仕の覚書。

三―18 江嶋為正覚書

一紙 一三・〇×九五・〇

【備考】包み紙あり。表書「上 江嶋長左衛門」冒頭「覚 定基公御代 本国薩州生国与州今治 江嶋助三郎為正 後長左衛門為政」

【内容】三代為正の享保三年から延享三年までの勤仕覚書。

三―19 勤仕覚書

一紙 二九・〇×七九・七

【成立】寛延四辛未年九月

【筆者】江嶋長左衛門為親

【内容】元文三年から寛延四年までの、四代為親の勤仕覚書。

三―20

勤仕覚書

一紙 二〇・七×四〇・七

【内容】宝暦五年からの、三代為正、四代為親の勤仕覚書。

三一 21 江嶋家勤仕覚書

一紙 一八×九八九・二

【成立】寛政三年辛亥歳四月

【筆者】江嶋長左衛門為祥

【内容】初代為信から五代為祥まで、寛文八年から寛政二年までの百二十四年間にわたる勤仕覚書。

覚
定務公初代
一 本國飛騨 江嶋長左衛門為祥
一 後今も在之屋、小川又初代、
在之屋元祖小倉為馬、安房、元文八
八年、七月七日和行百呂、長門為次
、在之屋若舟、今、秋、長門、初、中、代、
一 同十年、五月、廿五日、在之屋、初、中、代、
定務公初代
一 定務二年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀
定務公初代
一 同七年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
飛騨長左衛門、初、中、代、
一 同八年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、

作有儀
定務公初代
一 同七年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
飛騨長左衛門、初、中、代、
一 同八年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同九年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十一年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十二年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十三年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十四年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十五年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十六年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十七年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十八年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同十九年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同二十年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同二十一年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同二十二年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同二十三年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、
一 同二十四年、七月、廿七日、在之屋、初、中、代、
行有儀、初、中、代、

三―22 江嶋家勤仕覚書

一紙 三三・五×一一〇八・八センチ、八分紙美紙、中納言江嶋主宝國公、八升宝吉公に謹升じ書
【備考】包み紙二枚、うち一枚に「上 江嶋源左」

【内容】三―21とほぼ同内容であるが、三―21は数箇所付箋による訂正が見られるなど、三―22の草稿の可能性が有る。今回発見された勤仕覚書の中でも最も長く、体裁が整っているものである。

三―23 勤仕覚書

一紙 一五・三×六七・四

【備考】付箋(一五・二×四・〇)あり。「定郷公御代 実佐々木木工弟 一本国薩州生国伊豫 助之進為親乃養子江嶋長左衛門為祥」

【内容】今治藩五代藩主定郷へ仕えた五代為祥の、宝暦十三年から安永五年までの勤仕覚書。

三―24 升々謹升之覚

【内容】今治藩六升藩主宝利、十升藩主宝國に謹升じ書、六升藩過の謹升書。

【題立】寶曆三年辛亥三月

一冊 二六・一×四六・四

三―25 謹升覚書

三―24 勤仕覚書

一紙 二九・一×四六・四

【成立】寛政三年辛亥三月

【内容】今治藩六代藩主定休、七代藩主定剛に勤仕した六代為政の勤仕覚書。

三―25 代々勤仕之覚

一紙 一五・五×九八・七

【内容】寛文八年から安永六年の勤仕の覚え。

三―26 勤仕覚書

一紙 一三・三×一一・八

【内容】天保三年から、今治藩九代藩主勝道公、十代定法公に勤仕した覚書。

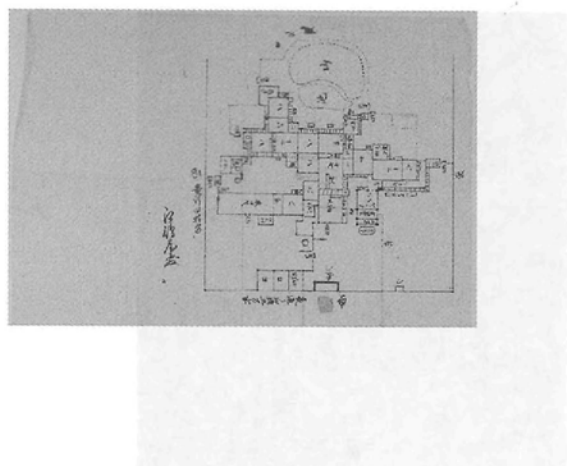
三―27 勤仕覚書

一紙 一六・二×四九・八

【内容】文政二年から七年にかけて、八代為美が、今治藩七代藩主定剛公、八代定芝公に勤仕した覚書。

○江嶋屋敷、墓所見取図

三―28 江嶋家屋敷図



一紙(二枚) ①二七・二×三九・四 ②二七・四×三九・八

【備考】①を拡大したものが②。①には屋敷周辺部あり。

【内容】① 表通り二拾五間半／裏行四拾間

② 東西二拾五間半／南北四拾間／此坪千〇二拾坪

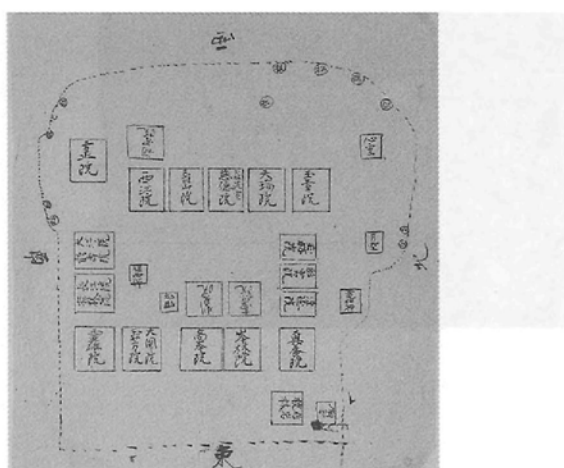
③ 西倉番取全図す。

【内容】天保山墓取の、玉置前墓の、父の父玉置墓の墓あり。子持子持

【備考】西倉番取。一墓所古園を節の首 玉置味燈太一

一坪 一三・六×一五・〇

三一 29 墓地所在地



一紙 一三・六×一五・〇

【備考】包み紙あり。「墓所古国分前に有 江嶋利惣太」

【内容】天保山墓地に、江嶋信雄とその父江嶋遊嘉の墓あり。それぞれの所在番地を記す。

① 東西二谷五間半、南北四谷間、北東十〇、二谷半

【内容】① 東面、一谷五間半、墓四谷間

【備考】① 全長六丁六寸の儀、全長五間半、西面あり、

② 東西二谷五間半、南北四谷間、北東十〇、二谷半、八

三―30 江嶋家墓地図

一紙 二〇・五×二七・〇

三―31 江嶋家墓所見取図

一紙 三〇・二×二七・一

【内容】今治市日照山海禪寺にある江嶋家墓所の見取図。



【解説】江嶋家の葬目算書。日照寺祖生禪寺の墓所が図かたは、この図。
一冊 半冊 一冊 一三・六×六九・一

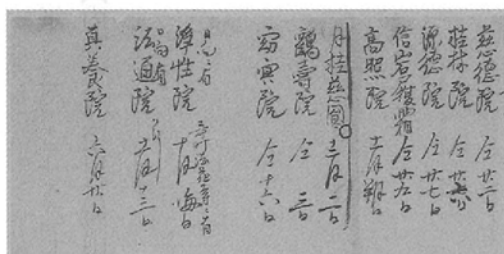
三―32 江嶋家葬目算

○山事関書

○仏事関連

三―32

江嶋家祥月覚



一紙 半紙二ツ折 一三・六×六九・一
 【内容】江嶋家の祥月覚書。日向寺町法蔵寺の墓誌が記されている。

三―31

江嶋家墓所見取図

三―30

江嶋家墓所見取図

三―33 江嶋家祥月覚

一紙 一七・三×四六・八

【内容】三―32と同内容。彩雲院から法通院まで、三十三人の法名及び祥月が記されている。

三―34 江嶋家祥月覚

一紙 一三・六×七五・四

【内容】江嶋家の祥月日の覚書。

三―35 江嶋家戒名覚

一紙 一五・五×四〇・八

【内容】為信から彩雲院（天明二年死去）までの戒名覚書。

【内容】各冊の封材端（冊由三手張込）までの戒名覚書。

【備考】墨所あり。表裏の寸法あり。

一冊 半部二冊 一六・八×三三・二

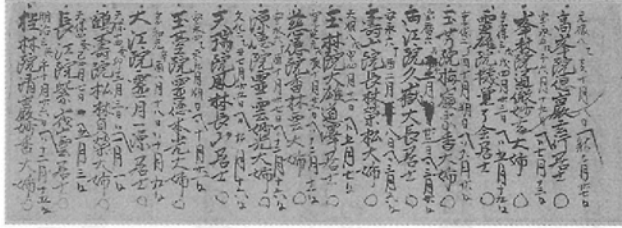
三―36 玉圃家戒名覚書

三一 36 江嶋家戒名覚書

一紙 半紙ニツ折 二六・八×三七・七

【備考】墨消あり。法名の下に丸印あり。

【内容】為信から桂林院（明治三年死去）までの戒名覚書。



鎌倉 天即一平次法○まづの戒名覚書。
四〇・八

三一 32

新日目の覚書
十五・四

三一 34

同内容。鎌倉遠くから書簡まで、三十三人の戒名及び新日目を挙げてある。
四六・八

三一 33

五輪家新日賞

三―37 明治三年江嶋氏過去帳

写本一冊 仮綴じ 一三・七×二〇・七 一四丁

【外題】(直書)「明治元癸酉年 江嶋氏 新八月改 法名 實名 俗名」

三―38 江嶋利惣太戒名及び墓誌

一紙 一四・二×三九・二

【内容】江嶋利惣太(明治四十年正月二十五日没)に関する戒名、墓誌、追悼文などが記されている。

職員名簿門ノ資料

【藤原】 並土ノ藤原氏 一冊ノ藤原 一四ノ以上ノ藤原喜助ノ家来ノ其
四月十五日

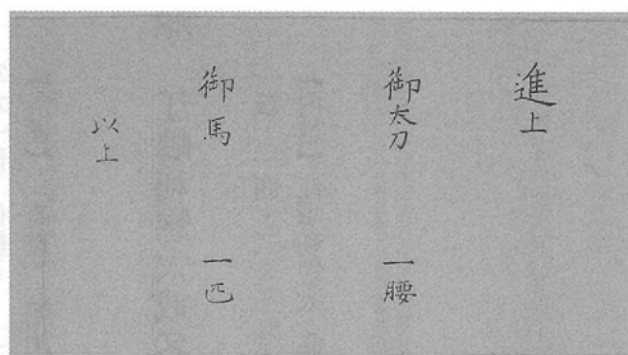
【前巻】 表書一巻書ノ藤原氏ノ墓誌 並土 対倉田内ノ内 日本新編 如
一冊 一三・六×六一・三

三―38 並土福

○並土福等賞書

○進上証等覚書

三-39 進上証



一紙 二三・六×六二・三

【備考】表書「表書之通相納候訖 当番 板倉周防守内 杉本清蔵 戌

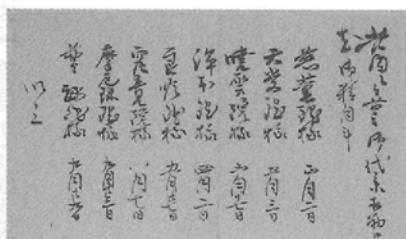
四月十五日」

【翻刻】進上ノ御太刀 一腰ノ御馬 一匹ノ以上ノ松平壹岐守家来ノ江
嶋長左衛門ノ為祥

二
 文心墓誌
 一
 文心墓誌

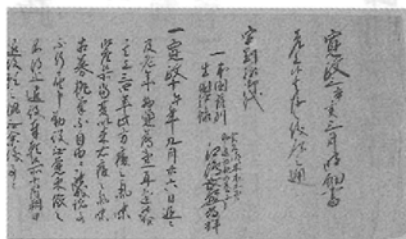
三-78 即出三平五御刀御法

三 40 御代参覚



一紙 一三・七×二一・八

三 41 寛政三年以後明細書



一紙 一五・八×一九一・三

【翻刻】(冒頭)寛政三辛亥三月明細書差上候其後之儀左之通

【内容】江嶋長左衛門為祥、江嶋源左為政、江嶋助五郎為義、時代でい
えば寛政五年九月八日より弘化二年正月二十九日まで、江嶋家
が歴代今治藩主より受けた知行を含む下賜の明細書。

三―42 寛政三年以後明細書

一紙 一五・七×三八九・四

【翻刻】(冒頭)「寛政三辛亥三月明細書差上候其後之儀左之通ニ御座候」

【内容】江嶋源左為政、江嶋長左衛門為善、江嶋助之進為美、時代は寛政五年九月八日より文政七年十一月五日まで、江嶋家が歴代今治藩主より受けた知行を含む下賜の明細書。日まづ、工藤又

三―43 御判物覚書

一冊 一五・八×一六・三

三―44 一紙 一六・五×五〇・五

【内容】為信から助之進為美までの間の、藩主から下賜された事項のみを記した覚書。

○明治以降の証書関連

三―44

下札 不時御用郷夫下札

（附録五）

一紙 一六・五×二四・〇

【成立】寛政元年

【備考】包み紙あり。

【内容】江嶋源作にあてた、上神宮村に三人雇用を許可する勘定所の有印文書。

三―84

家督印鑑賞書

三―45

辞令公布書

一紙 一八・七×二六・二

【成立】明治十二年七月二十七日

【内容】江嶋務あての今治警察署からの辞令公布書。

三―74

共進士証書

【内容】江嶋源作の共進士へ入封した額封封さ糊入りの証書。

【備考】（末通）即ち十四号十二日廿五日、江嶋源作宛。

一冊 一八・〇×二二・三

三―34

共進士八封箱

三一 46 共振社八社証

一紙 一八・〇×二三・七

【翻刻】(末尾)「明治十四年十二月廿五日／江島信雄殿」

【内容】江島信雄が、共振社へ入社した際に株を購入した証書。

三一 47 共振社証書

一紙 一六・六×二四・四

【翻刻】(末尾)「明治十四年十二月廿五日／江島信雄殿」

【内容】共振社の割増金証書。

三一 48 家督相続覚書

一紙(二枚) ①一五・八×一五・二 ②一三・六×二五・八

【筆者】江嶋務

【備考】包み紙あり。「明治十九年十二月分籍ス 明治二十六年五月本家に復帰ス 明治二十六年六月相続ス」

【内容】①は、江嶋務が明治十九年十二月十八日に越智郡に分籍、明治二十六年五月二十六日に復籍届を提出、同月三十日に本家に復籍、翌年に家督を相続した旨が記されている。

②には越智郡の住所が記されている。

○その他書簡、書付

三一49 為信身分照会状

一紙 一五・二×九四・二一

【内容】差出人、年月不明ながら、為信の身分、経歴今治藩へ抱えられた経緯、能力（文芸）について照会したものの。江戸中期に為信が既に忘れ去られた存在となっていたことを示す資料。

一紙 一五・二×九四・二一
 為信の身分照会状
 江戸中期に為信が既に忘れ去られた存在となっていたことを示す資料。

一紙 一五・二×九四・二一
 為信の身分照会状
 江戸中期に為信が既に忘れ去られた存在となっていたことを示す資料。

三一49 安永三年五月十五日 藤之野村田之嶺心寛

三―50 安政三年正月十五日源之進被召出之節心覚扣

写本一冊 横本 仮綴じ 共表紙 一三・四×一八・九 六丁

【外題】(直書)「安政三年正月十五日源之進被召出之節心覚扣」

【備考】幕末から明治にかけての江嶋家の動向を記したものの。

三―51 明治四年十二月十八日書留

一紙 一五・八×五一・〇

【翻刻】(末尾)「未十二月十八日出 江嶋信雄」

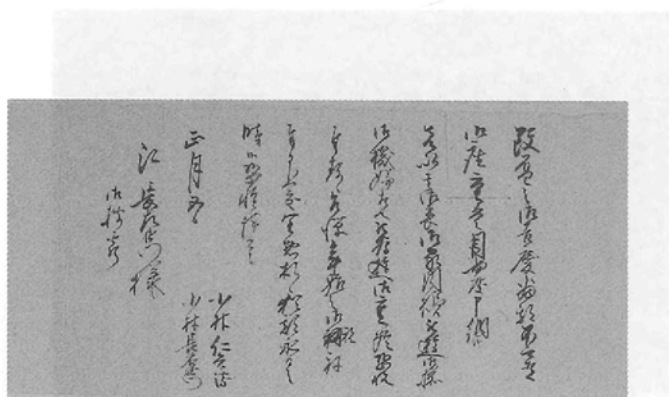
【内容】未年(明治四年)の江嶋家構成。

丁頭金丁二の。五百中腹ニ養計地理ヲ忍ビ去シテオサキオボフ。アノコトヲ示シテ書留。ノ
 【内容】養出入、半貝本脚はな、養計の長代、養計令古新へ時よ、オサキオボフ、諸代(文章)コト
 一冊 一五・二×八四・二

三―52 養計長代照会付

○その冊書簡、書付

三—52 江嶋長左衛門宛書簡



一紙 半紙二ツ折 一八・二×四八・八

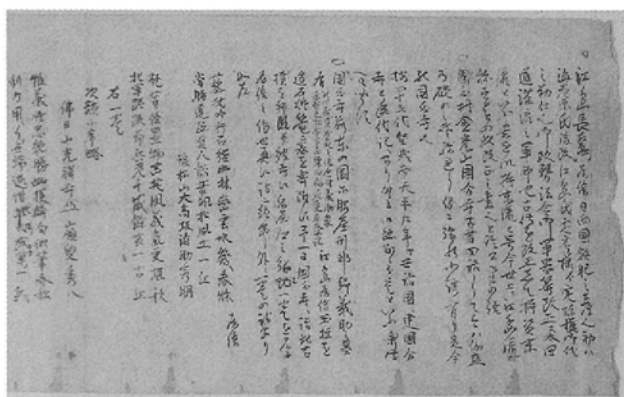
【備考】包み紙あり。「豫州今治御家中 江嶋長左衛門様 山村長右衛門」

【翻刻】(末尾)「正月五日 小村仁兵衛 小倉長右衛門／江 長左衛門様」

【内封】「今治御家中」を「今治」に改題して複製したものである。

一冊 一七〇・一七〇・一七〇・一七〇

三 53 今治夜話抄



一紙 二七・二×一七一・二

【内容】「今治夜話」巻之三より為信関係記事の抄出。

刺

【藤原】(末頭)二十五日 小村(三)兵衛 小倉(三)兵衛門 / 五 兵衛門

門

【前々】尾(三)兵衛(三)兵衛 一瀬(三)兵衛(三)兵衛 中 五兵衛(三)兵衛門 山(三)兵衛(三)兵衛

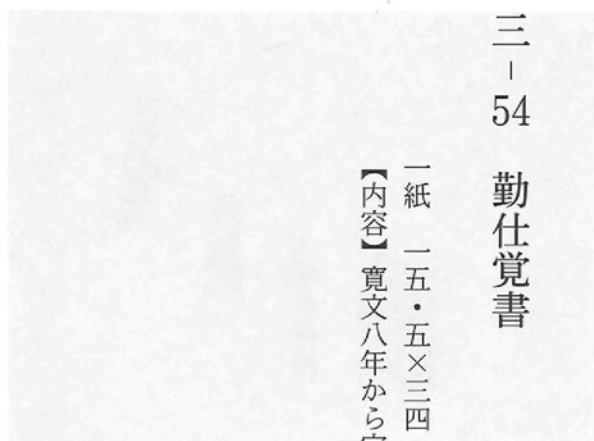
一 半(三)兵衛(三)兵衛 一八・二×四八・八

三 53 五兵衛(三)兵衛門(三)兵衛

三 | 54 勤仕覚書

一紙 一五・五×三四・〇

【内容】寛文八年から宝暦元年までの為親の勤仕覚。



この資料の様式はよく知られていない。

可成り丁寧な筆跡で、あまのむねの語句が用いられている。また、この覚書には、更紗不問の語句が用いられている。山本は、この覚書は、更紗不問の語句が用いられている。山本は、この覚書は、更紗不問の語句が用いられている。

【内容】 勤仕覚書、山本の覚書等の資料。 市商文庫蔵の高山啓輔蔵。

【備考】 一不二勤西行の想高く、期 勤風神山本一

詳本一冊 二四・六×三一・八

四 | 1 山水絵詞譜本

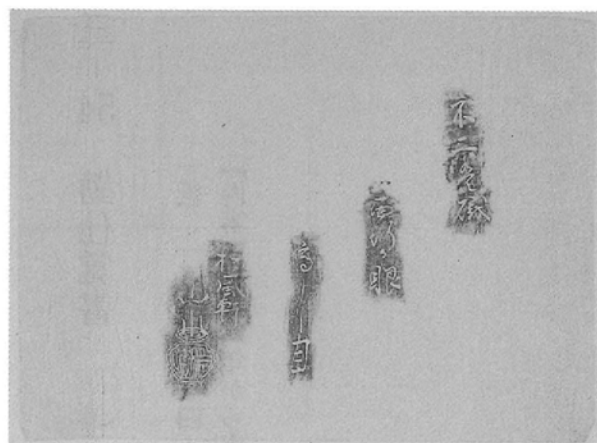
○掛軸・麻紙

四 譜本

四 諸芸

○俳諧・和歌

四―1 山水発句拓本

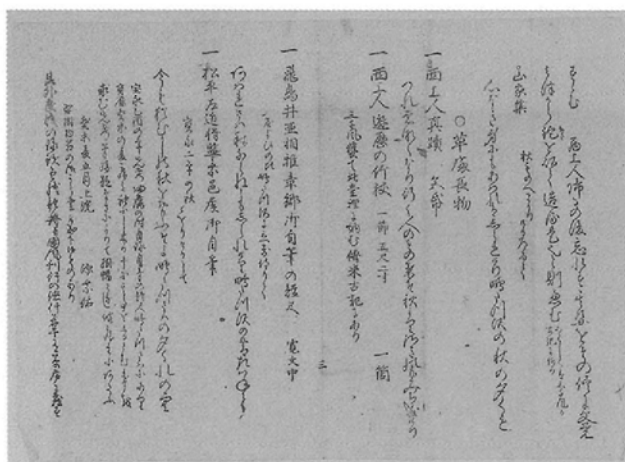


拓本一紙 二四・六×三一・八

【翻刻】「不二は磯西行か眼高く眼 松風軒山水」

【内容】談林俳諧師、山水の数少ない資料。柿衛文庫所蔵の為信短冊と比較して、山水こと江嶋為信の自筆を刻したかと思われる。印記の記されるのも数少ない。この拓本が、現存不明の為信の江戸墓所で採られたのか、あるいは別に句碑のあったものか、そのどこで採られたものかは不明。

四 1 2 西行関係刷り物



一枚刷り 二二・六×三一・一

【成立】 癸未夏五月上浣

【内容】 宝暦三年の西行関係刷り物。文中に大淀三千風の名あり。

ホイイサスの四脚まき結ひの明巻(氣巻)一首、歌巻一首、
 歌巻二首。

【内容】 氣巻は五百へ向ふを途中の歌まき結ひの明巻(氣巻)一首、
 二巻一五・八×一三・五。

四一三 江嶋為親和歌

武品之於客舍詠脚躑
 春興之和歌二首并
 短歌
 契有也 故鄉遠久
 啼鶴 旅方住居毛
 幾度可 別天不憂
 並哉野耳 且新玉衆
 春母來而 霞能衣
 立 凌 天津光曾
 長馬奈留 軒端乃為梅能
 花乃雲 月登愛
 詠左邊 日教重而

一紙 一五・九×一三五・〇

【内容】為親が江戸へ向かう途中の宿舎で詠んだ和歌（長歌）一首と

短歌二首。

ホトトギスの初鳴きを詠んだ和歌（長歌）一首と短歌一首。

【内容】江嶋為親の西行関所脚躑の歌。又中の人集三千冊の各巻。

【知見】安永夏氏氏刊

【附録】二二・六×三一・一

四 | 4 和歌短冊

打曇り模様 三六・一×五・六

【作者】 閑休

【備考】 歌題「旅泊月」

四 | 5 和歌短冊

打曇り模様 三五・八×五・六

【作者】 光顯

【備考】 歌題「月前草露」

四 | 6 和歌短冊

打曇り模様 三六・一×五・六

【作者】 信安

【備考】 歌題「菊籬月」

四一七 和歌短冊

打曇り模様 三五・九×五・六

【作者】武朝

〔歌謡頁〕

【備考】歌題「暮秋暁月」

打曇り對斜 三六・一×五・六

四一八 和歌短冊

打曇り模様 三四・八×五・四

【作者】常子

〔日蓮草藪〕

【備考】歌題「夢」

打曇り對斜 三五・八×五・六

四一九 和歌短冊

打曇り模様 三四・七×五・四

【作者】重いへ

〔飛騨頁〕

【備考】歌題「新年」

打曇り對斜 三六・一×五・六

四一10 和歌短冊

打曇り模様 三六・一×五・六

【作者】常子

【備考】歌題「寄神礼」

四一11 和歌短冊

金箔ちらし模様 三六・一×六・〇

【作者】良助

【備考】歌題「苔」

四一12 発句短冊

打曇り模様 三六・〇×五・六

【備考】見返し「一詩々木幸ひ南門貝内、堤江浦古南門重葺、瀬田宅内」

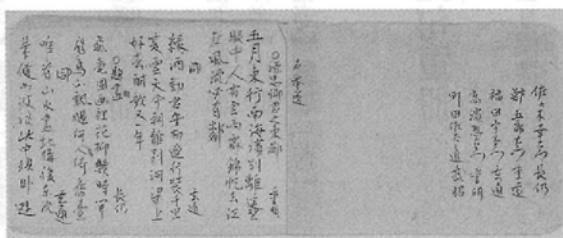
四一81 蕪精集

○蕪精文

○漢詩文

四一13 漢詩集

作于子為長仍
 新五五五
 枯四子
 高滿
 引四



写本 横本一冊 共表紙 一二・二×一七・六 八丁。

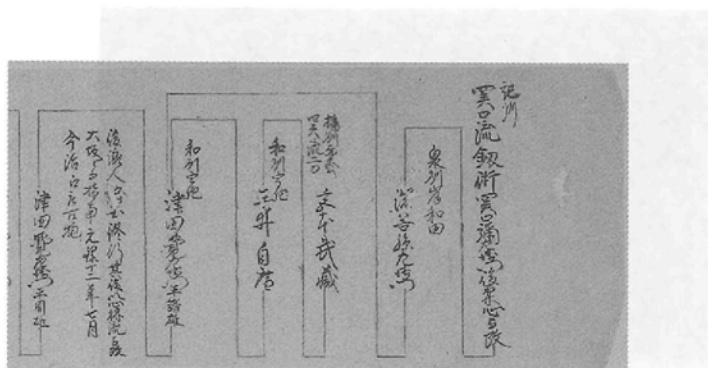
【備考】見返しに「佐々木幸右衛門長仍／鯨五郎右衛門重遠／福田宇右衛門玄通／町田佐太之進武昭」

四一14 漢詩草稿

四一01 二紙 一二・〇×一三・四

○兵法

四一15 津田覺左衛門系図



一紙 一五・七×七四・二

【備考】 包み紙あり。外書「上 江嶋助之進」

【内容】 関口流劍術以心得宗流の兵伝書。宮本武蔵の流れを汲んでいる。津田覺左衛門は、元禄十二年七月に今治藩へ召し抱えられている。

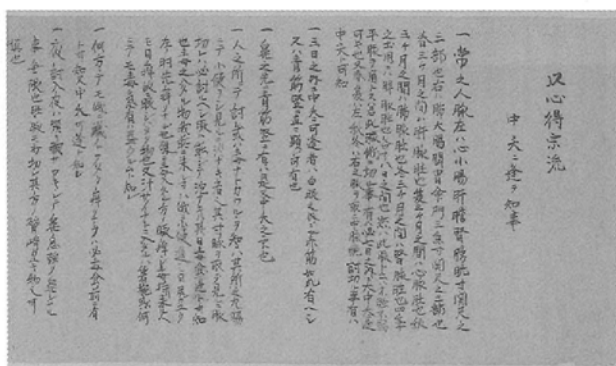
十二月十一日 禮出次主上ヨリ頼入ノ旨諭知セシ門 儀又(五聯)

【備考】 書附の縁紙に付添あり、「以心得宗流小入(五) 幕本六段并蓋

【刻立】 幕本六段并蓋十二月十一日

一巻 一八・五×三二五・一 一対 一八・五×一四・一

四一16 以心得宗流兵伝書 中天秘伝之卷



一卷 一九・五×三九五・〇 一枚 一九・五×一四・〇

【成立】 嘉永六癸丑蔵十二月十一日

【備考】 卷物の最後に付紙あり。「以心得宗流小太刀伝／嘉永六癸丑蔵十二月十一日 野呂先生ヨリ得之／江嶋吟右エ門 為久(花押)」

55

車田賞式論門刻ハ五編十二年三月廿日合市藩へ送リ附入リテ
 【内容】 関口流除前以心得宗流の兵伝書。宮本瓦越の流作を添入リテ
 【備考】 時本流の。代書「上 五編出之紙」
 一冊 一五・七×十四・二

四一17 劍術・鎧術の兵伝書

一紙 一三・二×五四・二

【内容】 鎧・長刀の以心得宗流兵伝書。

四一18 以心得宗流 師役書伴

一紙 一四・三×四・七

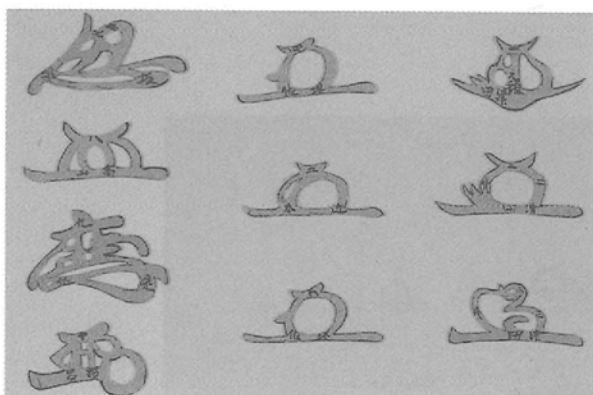
【備考】 包み紙あり。外書「以心得宗流 師役書伴」

【内容】 花押の型紙が十個（四一15の系図に出てくる人物のもの）。「慶」の花押見本。四一19に全ての花押の見本あり。

花押の型を紙の上に置き、細い筆で縁取りをした後、墨で塗りつぶして花押を書く。この当時の花押は、現代でいう認め印のようなものであった。

【内容】 「関口以心得宗流目録」

【代題】 「直書」 「録目録」



四一19 関口以心得宗流総目録



横本一冊 仮綴じ 共表紙 一三・三×一九・二七丁

【外題】(直書)「総目録」

【内題】「関口流以心得宗流総目録」

【備考】江嶋吟右衛門へ献上されたもの。

【内容】以心得宗流の兵伝書。四一18の花押の見本あり。

本巻の堅き冊の土口新巻、斷り違て装束りさし、又、墨で急の
 の手押見本。四一18の全丁の事柄に目本あり。

【内容】本巻の堅き冊十冊(四一18)の全丁に出てる八丁のもの(一巻)

【備考】伝る冊より、兵傳(以心得宗流)補冊者。

一册 一四・三×四・十

兵傳

四一19 関口以心得宗流の兵伝書

四一20 以心得宗流免許状

一紙 半紙ニツ折 四三・〇×六〇・五

【成立】万延元庚申歳四月吉旦

【備考】包み紙あり。

【内容】江嶋吟右衛門への免許皆伝書。

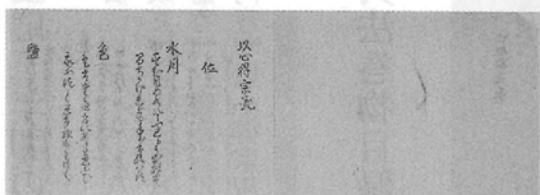
四一21 七位歌之卷

横本一冊 仮綴じ 共表紙 一三・四×一九・六 五丁

【外題】(直書)「七位歌之卷」

【備考】江嶋吟右衛門へ献上。

【内容】以心得宗流の兵伝書。七位を和歌で表し解説している。



以心得宗流
江嶋吟右衛門
八日の兵伝書

四一22 慶応三年卯の八月の兵法名寄

一紙 一五・八×八八・四

【成立】慶応三年八月

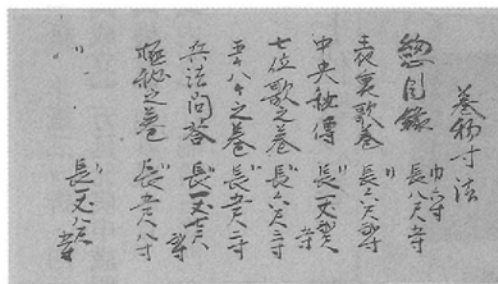
【備考】「慶応三年卯の八月改」とあり。

【内容】以心得宗流派の門下生の一覧。

四一23 兵法卷物目録

一紙 一五・二×二七・二

【内容】総目録 表裏歌卷 中央秘伝 七位歌の卷 五ヶ八ヶの卷 兵法問答 極秘の卷(二本)の寸法(幅と長さ)を記す。



目録
一五・二×二七・二

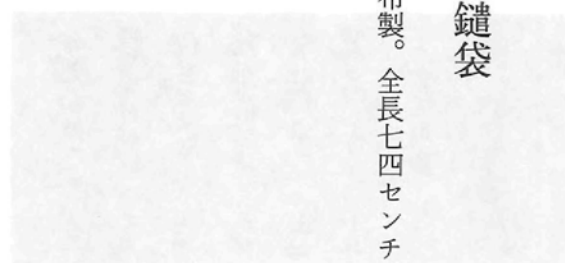
四―24 小太刀伝 免許状

一紙 一五・六×四七・八

【内容】小太刀の免許皆伝書。

四―25 鎗袋

布製。全長七四センチメートル。



【内容】大八段開帳の、羽字書五張、二十一冊を賣し出したもの書付が
一冊 一三・〇×二八・六

四―26 書懸貸出玉書

○書懸

○書籍

四一26

書籍貸出証書

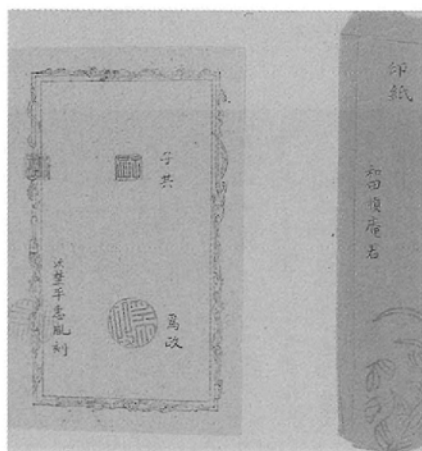
食物和歌大成 三冊
 醫家神祕新 五冊
 伊呂叢大成 五冊
 増補師語録 五冊
 食性細目 五冊
 萬病同春 七冊
 人形抄 五冊
 大久保興庵

一紙 一二・〇×二九・六

【内容】大久保興庵に、医学書五部二十二冊を貸し出したときの書付。

○篆刻

四一27 為政印箋



一紙 一五・五×九・五

【筆者】 沃埜平惠胤

【備考】 包み紙あり。「印紙 和田順庵君」

【内容】 沃埜平惠胤刻の「為政」の印がある。

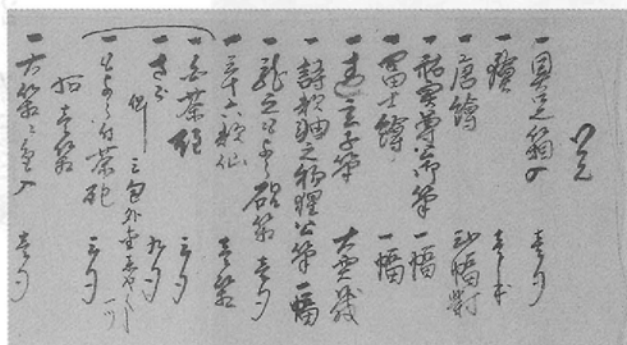
〔書録〕「富士録」三三六巻出「田実豊公騎車」なる依具あり。
【備考】末刻の「依具賣斷ニ付五脚を断交持開示の品賣賣録」文中の
一册 一六・四×五〇・八

四一8S 器具表立目録

○録画・工芸品

○ 絵画・工芸品

四一 28 道具売立目録



一紙 一六・四×五〇・八

【備考】末尾に「道具賣拂二付江嶋家置度候間右之品買置候」、文中に「唐絵」「富士絵」「三十六歌仙」「祐実尊公御筆」などが見える。

【内容】天保中、惠康殿の「巻見」の田舎まき
 【備考】回々遊より、「田舎 前田剛吉」
 【産地】近畿中津藩
 一冊 一五・五・六・式

四―29 道具目録

一紙 一六・三×三三・七

【備考】文中に「明治四辛未手拂物買 務」

○その他

四―30 九月二十六日伝授振る舞い献立表

一紙 一五・〇×四四・四

【内容】九月二十六日に何かが伝授された祝いにふるまわれた料理の献立表。

【備考】末巻に「貞享三年庚辰廿二日迄小」（高野白草資料）

【内容】「廻忌令」

写本一冊 写本 黄白表紙 一八・〇×廿・五

五―1 廻忌令

○訂事

五―1 高野白草

五 生活資料

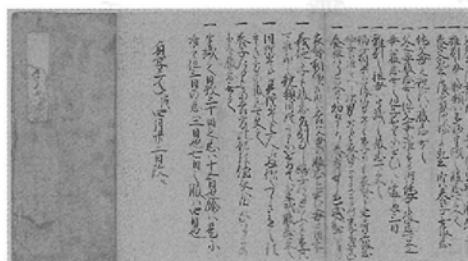
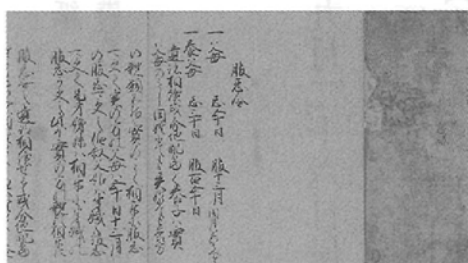
○行事

五-1 服忌令

折本一冊 写本 黄色表紙 一八・〇×七・五

【内題】「服忌令」

【備考】末尾に「貞享三年寅四年廿二日改ル」(為信自筆資料)



五 1 2 服忌令

小本一冊 写本 共表紙 一八・三×九・七 一八丁

【成立】正徳五年未ノ三月

【外題】(直書)「服忌令」

【内題】「服忌令」

五 1 3 服忌令

一紙 一六・〇×二九・五

【成立】文政元年九月廿九日

【内容】精進日ノ三日の内ノ初七日・三十五日・四十九日・百ヶ日ノ御玉殺生日ノ二七日迄 老中ノ

二七日迄 役人中

五 1 4 年始行事覚書

一紙 一三・三×四九・七・六

【備考】末尾に「文政七年十二月廿七日」

五 1 3

五 1 3

○去書

○法律

五―5 法律和解

一枚刷り 七五・八×三六・六
【備考】末尾の「文苑」中「五月廿三日」

【内題】改正法律和解／一名刑名一覽表初篇

【翻刻】刊記／明治十二年五月日御届 編輯出版人 大阪西成郡西高津村百十一番地 加藤富三郎／

二篇近日賣出し申候／賣捌 大坂心齋橋 綿喜／同 平野町 前田善次郎

二十日迄 袋入中

五―6 席觸

【備考】末尾に「亥 五月三日」。服装についての申し達し書。
【内題】「内題」二冊云々
【本題】「内題」二冊云々
【知立】五箇五廿三日

一紙 一六・六×二四・八

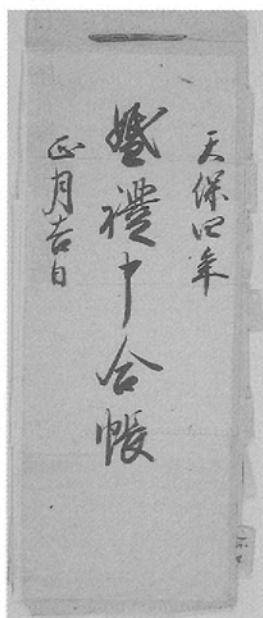
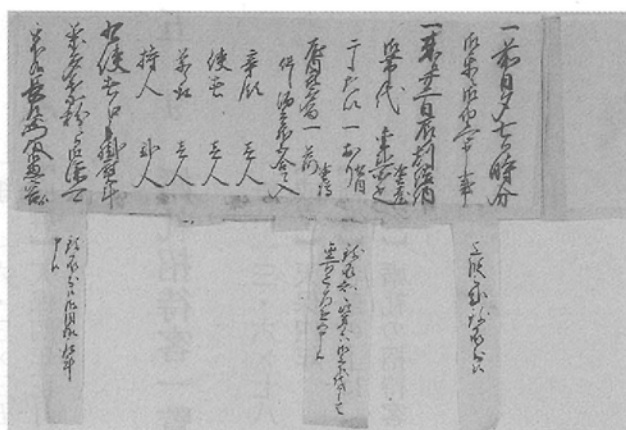
五―8 廻忘令

【内題】「内題」二冊云々
【本題】「内題」二冊云々
【知立】五箇五廿三日
小本一冊 其表紙 一六・六×二四・八

五―8 廻忘令

○婚礼

五-7 婚礼申し合わせ帳



大黒綴じ 共表紙 一三・六×三八・二 四丁

【成立】天保四年

【備考】付箋が十六枚あり。

【内容】天保四年正月二十二日に行われた婚礼の確認事項を時間を追って記す。

四十八各の各紙張をみる。
 列の五人」式と思はれる。○印あり。要付二列の片二の各

五―八 婚礼出席者名簿

一紙 一六・三×三五・六

【内容】天保四年正月二十二日の婚礼参加者の名簿。

五―九 婚礼招待客一覧

一紙 一三・六×七八・二

【成立】天保四年

【備考】名前の上に、後で記入したと思われる○印あり。受付に使われたものか。

【内容】婚礼の招待客四十八名の名が記される。

不明

【内容】大崎西平太夫の二十一日の行はる御礼の御座車前を御贈る事

【備考】村妻共十六対あり。

【成立】天保四年

大崎西平 共妻共 一三・六×七八・二 四丁

五―十 御座車前合の甘馳

○御片

五―10 婚礼招待客一覽

一紙 一三・六×二一七・四

【成立】天保四年

【備考】五―9に同じ。

【内容】婚礼の招待客七十四名の名が記される。

【内容】五頁、十二頁、百六頁の三頁に記される御井の御目ごまごま井式案内封。

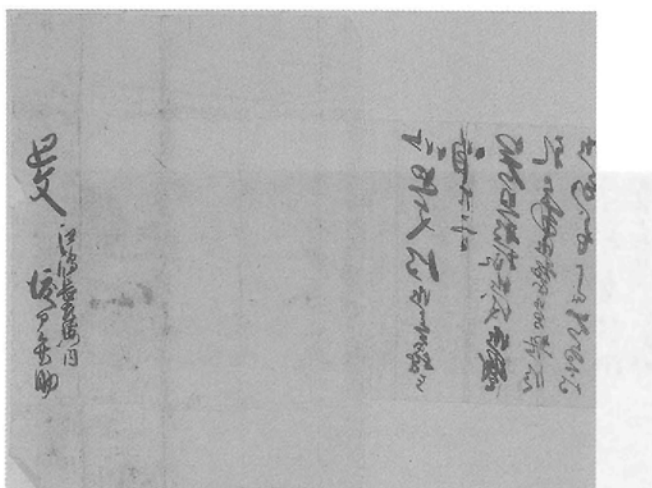
【備考】回文。返本遊まり。

【筆者】乃誦家入 萬満世樹

【成立】天保四年正月廿七日

一冊 一六・二×二一〇・二

五―11 婚礼案内状



一紙 一六・二×七〇・二

【成立】天保四年正月廿一日

【筆者】江嶋家人 渡部竹助

【備考】回文。包み紙あり。

【内容】正月二十二日に行われる婚礼の前日に書かれた案内状。

【内容】御所の御持寄下十四名の姓名記帳である。

【備考】五・七・回文。

【成立】天保四年

一冊 一三・六×一三・四

五 | 12 婚礼案内状

一紙 一六・三×五八・八

【成立】天保四年正月廿一日

【内容】江嶋助五郎より翌日の婚礼参加者への書状。

五 | 13 長左衛門宛書簡

一紙 一三・八×三八・六

【成立】天保四年正月廿一日

【筆者】岡本太郎左衛門・池内忠太

【内容】天保四年正月二十二日の婚礼に参加するという返答書。

五 | 14 中澤源右衛門宛書簡

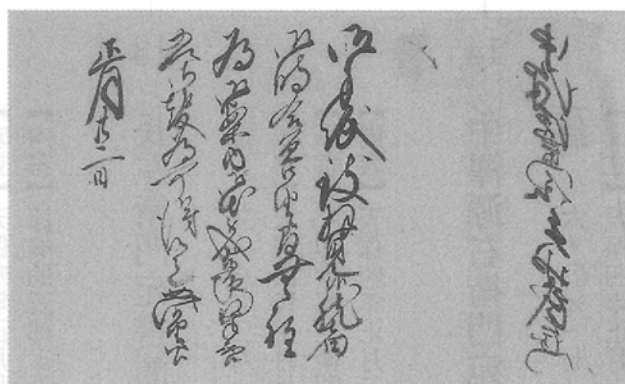
一紙 一六・〇×一七・九

【成立】天保四年正月十七日

【備考】宛名「中澤源右衛門様／御膳面添／矢野武右衛門」

【内容】天保四年正月二十二日の婚礼に関する書状。

五―15 矢野武右衛門 婚礼関係文書



【内容】天保四年五月二十一日の婚礼に関する書状。

【備考】表裏「中澤源右衛門宛、贈物面添、天保九年寅月」

一紙（六枚） 一六・〇×二六・六／二八・二／三〇・四／三二・八／

三二・六／三五・二

【成立】天保四年

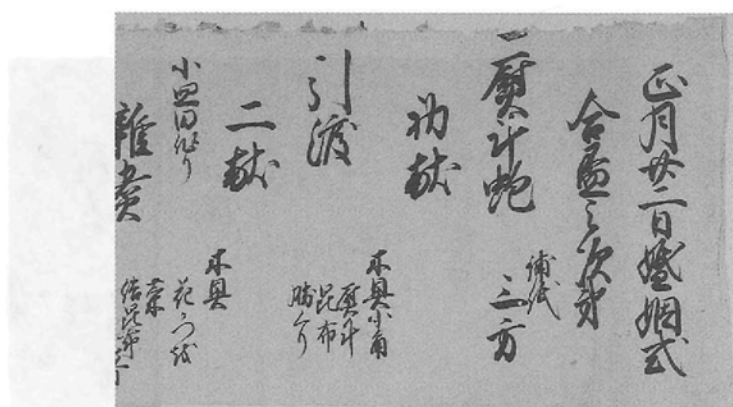
【筆者】矢野武右衛門

【備考】六通がそれぞれ別の内容を報告している。

【内容】中澤源右衛門宛に正月二十二日の婚姻の手続きが滞りなく行われたことを逐一伝えた報告の書状。

【成立】天保四年五月二十一日
一冊 一六・三×五八・八

五 16 天保四年正月廿二日の婚礼の次第



一紙 二八・八×三八二・二

【成立】天保四年

【内題】「正月廿二日婚姻式 合盃之次第」

【内容】婚礼の当日に供される料理の一覧。次第と材料も記す。「合盃

之次第」「色直服紗料理」「家内対面の節」「舅入りの節」「夜分」

「千秋万歳」

【翻刻】(一部)

夜分

つみ入

濃醬

大こん

焼とふふ

いも

牛蒡

茶漬飯

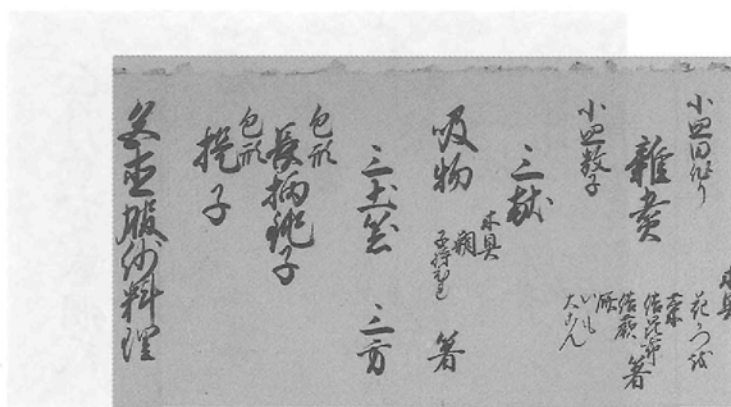
香の物

板はんへい

焼鳥

ささい

車えび



松竹梅 小たい

飯たこ

大鉢肴 玉子

長いも

河茸

九年母

にんしん

ふきのとふ

巻鮓

同夜

小皿

平皿・めし

吸物

鉢肴

大硯蓋

大硯蓋

【内容】御片の旨日ヨ申おける料理の一覽。大層と料理ヨ強す。【合志
【内題】「五月廿二日御片」 合志之次第
【成立】天保四年
一冊、一八・八×二八・二二

五―17 正月廿二日婚姻式献立表

一紙 一五・四×六七・五

【成立】天保四年

【内容】婚礼の日の食事の献立表〈小皿・汁、平皿・めし、吸物、鉢肴、取肴〉同夜〈小皿、平皿・めし、吸物、鉢肴、大硯蓋〉以上／翌日前日の通

五―18 色直しの節 盃事の次第

一紙 一五・四×一八・八

【成立】天保四年

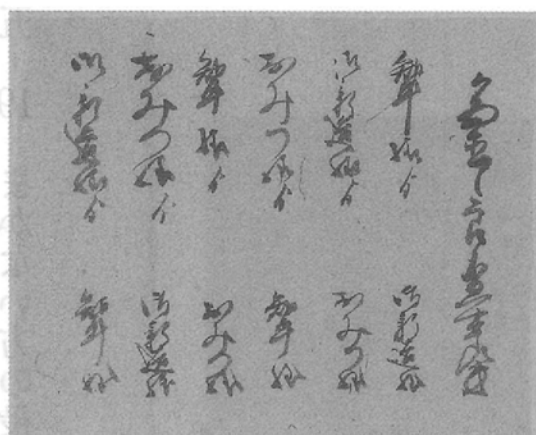
【内容】色直しの節の盃事の交換の順序の覚書。

附表。

【内容】辞書方コはれり、持取人、酌式、謝式、奉内、なへ、肴封の付

【成立】天保四年

一紙 一五・四×一八・八



諸代出表

五-19 まかない方の役割分担表

役割	料理人	酒方	椀方	本杓	かへ	肴扱
	小川屋亮 江長屋半	近友権	お殿 延命 新原 延命 寺中 延命	お殿 お殿	お殿	お殿

一紙 一五・〇×三一・二

【成立】天保四年

【内容】結婚式における、料理人、酒方、椀方、本杓、かへ、肴扱の分担表。

【内容】前掲の儀の盆事・文楽の劇中の資料。

【成立】天保四年

一冊 一五・四～一八・八

津の式集

【内容】大船通、以上、翌日節日の儀

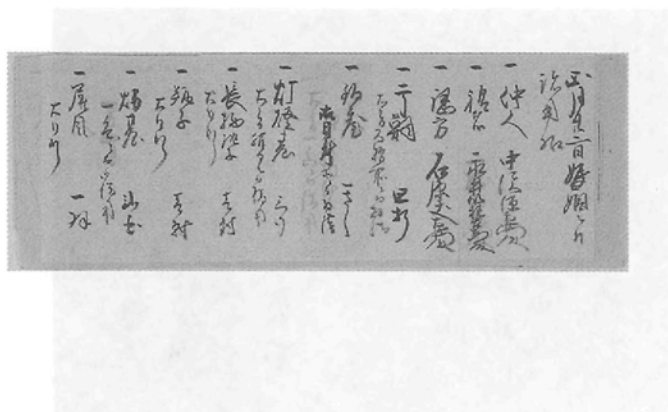
【成立】小皿・六、半皿・八、お殿、肴扱、別巻、同巻（小皿・半皿・

【成立】天保四年

一冊 一五・四～六十一・五

五-21 五月廿一日御殿左補立表

五―20 正月廿二日婚姻の日の御用始



大黒綴じ 一三・八×三九・四 五丁

【備考】 包み紙あり。外書「目録」

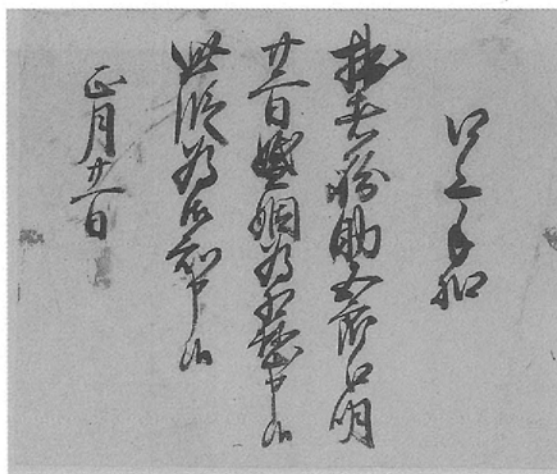
【内容】 天保四年正月二十二日に行われた婚礼の御用始め。婚礼に協力してくれるスタッフや人数、裏で控えている人々へ出す料理の献立などの目録。

【筆者】 玉備長式部門

【献立】 天袋四半

一膳 一膳・四×二五・〇

五一22 正月二十一日口上控



一紙(二枚) 一六・二×一八・八/一九・二

【成立】天保四年

【筆者】江嶋長左衛門

【備考】二枚とも内容は同じ。

【備考】史食の紙は焼や濁あり。

【筆者】鳥飼長左衛門

【成立】天保四年

一冊 一六・二×二一・〇

正一33 五月二十一日口上控

五―23 正月二十二日口上控

口上控
 今午日未就吉左衛門様
 虫食の跡あり千被り草
 目と度とを御座候し申上
 之由御座候と申上候
 此方より御座候と申上候
 此方より御座候と申上候
 此方より御座候と申上候
 此方より御座候と申上候

一紙 一六・二×二一・〇

【成立】天保四年

【筆者】江嶋長左衛門

【備考】虫食いの跡が数カ所あり。

【副き】「対」の内容お同し

【筆者】天保四年

【宛先】天保四年

一冊（二対）一六・二×二一・八／一九・二

五―23 正月二十二日口上控

五―24 聳入り行列次第

大黒綴じ 一三・八×三九・五 三丁

【成立】天保四年

【備考】虫食いの跡が数カ所あり。

【内容】天保四年正月二十二日に江嶋家に中沢源右衛門が聳入りしたときの行列の次第を記す。

【内容】

一冊 半葉二枚 二六・〇×四二・三

五―25 結納目録

【備考】

一紙 二九・二×四二・六

【備考】包み紙あり。「結納目録」と書いた付箋が一枚ついている。

【内容】結納の際の目録／御上下代 金百ひき／干たい 一おり／やなぎだる 一荷

一冊 二六・〇×四二・六

五―78 御片書付

【内容】天保四年五月十二日の御片に関する書付。のじ・三枚・茶碗・鉄付ふくし入り御片の賞書。

【成立】天保四年五月十日

一冊 二二・八×二二・五

五―88 御片御具の賞書

五―26 婚礼道具の覚書

一紙 一三・九×二七・五

【成立】天保四年正月十七日

【内容】天保四年正月二十二日の婚礼に関する資料。のし・三方・茶碗・鏡台など嫁入り道具の覚書。

五―27 婚礼書付

一紙 二九・〇×四二・六

【内容】干鯛を贈ることが正月二十六日に記されている。婚礼の後の引き出物目録と思われる。

五―28 道具覚

一紙 半紙ニツ折 二九・〇×四二・三

【内容】婚礼の道具の覚書。

【内容】天保四年正月二十二日、玉瀧茶臼中成福寺境内に嫁入り道具の引き出物目録と記す。

【備考】史食の袖紙焼き済み。

【成立】天保四年

入集録 一三・八×三三・五 二下

五―29 嫁入りの行儀次第

五 | 29 婚姻扣帳入れ

一紙 二一・八×三〇・八

【翻刻】「天保四癸巳正月廿二日 婚姻扣帳入 江嶋助五郎」

五 | 30 江嶋源之進宛の覚書

一紙 一六・〇×一六・〇

【成立】子の年の十月二十四日

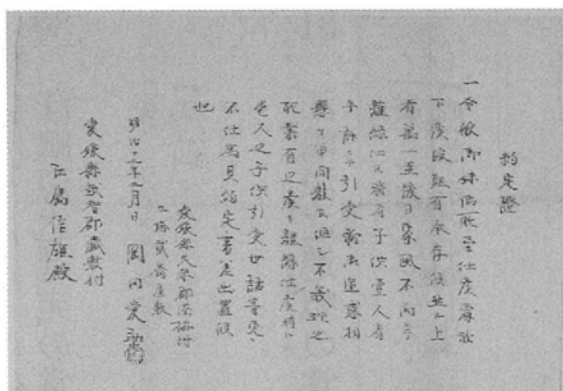
五 | 31 江嶋源之進宛の覚書

一紙 一六・〇×一六・〇

【成立】子の年の十月二十四日

【内容】 覚書の宛の御脚こども、掛主さまの、一紙一紙の宛の宛り共々。
【備考】 冒頭「源之進」 宛主「江嶋源之進宛」 江嶋源之進宛
【成立】 同前十二年二月日
一冊 一八・〇×二六・八

五 | 32 婚姻約定証



一紙 二八・〇×二六・九

【成立】 明治十二年二月日

【筆者】 岡田愛助

【備考】 冒頭「約定証」宛名「愛媛県越智郡蔵敷村 江嶋信雄殿」

【内容】 信雄の妹の婚姻につき、相手方より、万一離婚の時の取り決め。

【備考】 「天祐丙午五月廿一日 御願出願人 江嶋信雄殿」

五 | 33 御願出願人

五 33 目録

一紙(二枚) 三四・〇×四七・八

【備考】包み紙あり。外書「もくろく」多少虫食い跡あり。

【内容】袷代として百疋を賜る。

【備考】(五頁廿三日)

紙(二枚) 三四・〇×四七・八

【備考】包み紙あり。外書「もくろく」多少虫食い跡あり。

【内容】袷代として百疋を賜る。

五 34 目録

一紙 二九・二×四二・七

【備考】包み紙あり。外書「目録」/付箋あり。「江嶋惣客様江 山路家内より」

【内容】干鯛 一折

【備考】(口土) 此書は江嶋山路家内より

【備考】(口土) 此書は江嶋山路家内より

五 35 目録

一紙 二九・三×四二・八

【備考】包み紙あり。外書「もくろく」付箋あり。「御西親様江 縁女より」

【内容】しん上/干たい 一おり/已上/磨次

五 36 金銀貨

○金銭

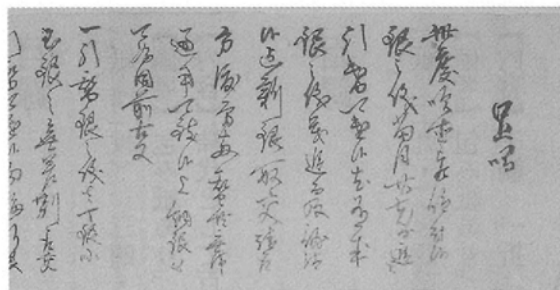
○金銭

五―36 金銀覚

一紙 一三・五×二六・八一
【内容】天保十二年から十四年の金銀覚え。
一冊 一八・三×四二・八

五―37 口上写 (丁銀引替のこと)

口上



一紙 一五・五×二二九・二

【備考】文中に「但し丁銀差出小国銀之引替又は小国銀差出丁

銀引替候儀勝手次第」

【内容】冒頭「口上写 此度吹直被仕仰付候銀之儀当月廿七日

より追々引替可遣候」。末尾「蠣喜町銀座 三井組 駿

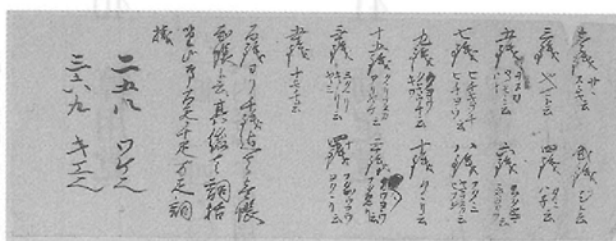
河町為替御用被扱所 十人組 本面替所為替御用被扱

所」。以下「室町三丁目 竹原屋互右衛門」から「神田

旅籠町石川屋庄八郎」まで計五軒。「右之通公儀より被

御出候 正月廿三日」

五一38 金銭呼称控



一紙 一三・六×三七・七

【内容】金銭の呼び方(符帳)。

【翻刻】「壹銭 サ、ス、キ 云/弍銭 ジト云」以下省略。

十六日、正徳知事前門
 ×二八・一
 御送書の附録の裏云。
 ×一三・六

【内容】由・書簡のこしむいふ。

一冊 半冊二く活二二・四×五二・二

五138 真用辨

五 39 算用帳

一紙 半紙二ツ折 二七・四×五二・二

【内容】油・醤油のことなど。

五 40 算用覚

一紙 一四・〇×一三・九

【内容】子供用脇差等の値段の覚え。

五 41 勘定覚

一紙 一三・五×三八・一

【内容】二月二十六日、江嶋吟右衛門の勘定覚え。

○その他

五―42 守札

木札（一枚） 九・一×五・九

【備考】包み紙あり。外書「守札」

【翻刻】

（表）

生國伊与

父助之進男

蔵

吹揚神社氏子

江嶋務

敷

天保七丙申七月二十四日生

（裏）

祠堂

佐伯宗信

明治六癸酉三月二十九日

五―43 西宮仙助引札

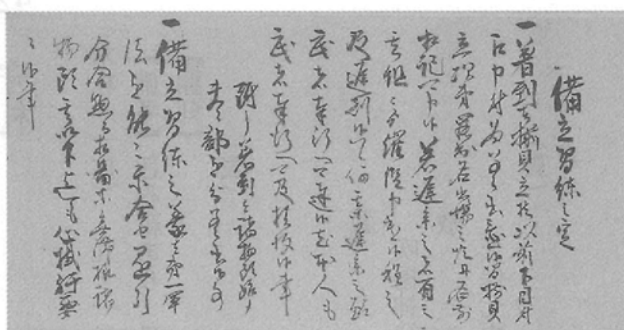
小掛巻

一枚刷り 二二・六×三〇・三

【内容】ゆしま切通坂大おろし 西宮仙助

六幕長戦争関係

六一 戰場における心得等



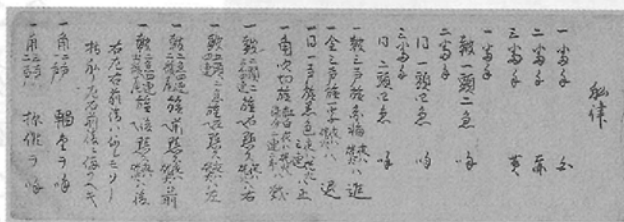
一紙 二二三・七×一四四・九

【内容】 備立習練之定／御番頭心持之事／相図符約之事／行路相図之事／戰場相図之事／武士袖下／備之形

五十七
五十八
五十九
六十

〇の部

六 一 二 船 律



一紙 半紙二ツ折 二六・八×三九・八
【内容】 水軍の船を指揮するいろいろな合図をまとめたもの。昼間は旗で、夜間は灯火を用いていたことがわかる。

六 一 三 船 図

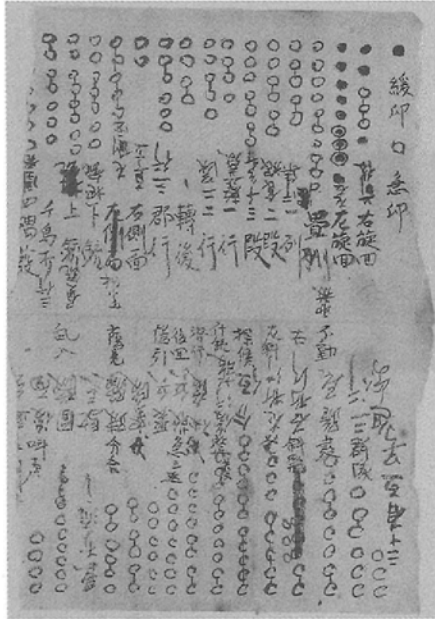
【内容】 文久三年（一八六二）に、今尚蘇州新編如き新式の船の式。
 一海 半紙二ツ折 二六・八×一六・八

六 1 3 隊列図

一紙 半紙二ツ折 二六・八×一六・九

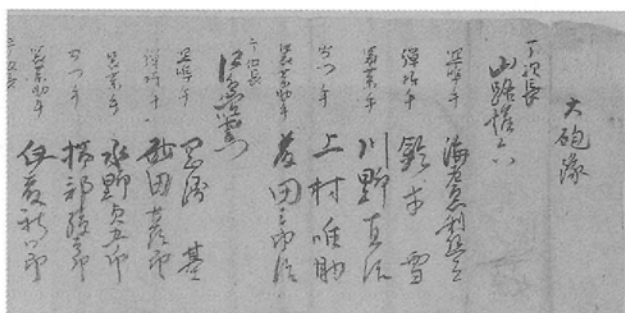
【備考】文久三年（一八六三）に、今治藩は隊編成を洋式に改めた。

【内容】金鼓（鉦）の叩き方による隊列の組み方をまとめたもの。



第一隊 右側面
第二隊 左側面
第三隊 正面
第四隊 背面
第五隊 右側面
第六隊 左側面
第七隊 正面
第八隊 背面
第九隊 右側面
第十隊 左側面
第十一隊 正面
第十二隊 背面
第十三隊 右側面
第十四隊 左側面
第十五隊 正面
第十六隊 背面
第十七隊 右側面
第十八隊 左側面
第十九隊 正面
第二十隊 背面
第二十一隊 右側面
第二十二隊 左側面
第二十三隊 正面
第二十四隊 背面
第二十五隊 右側面
第二十六隊 左側面
第二十七隊 正面
第二十八隊 背面
第二十九隊 右側面
第三十隊 左側面

六―4 大砲隊



一紙 一五・二×五八・一

【備考】文久三年（一八六三）三月、今治藩は天保山脇、浅川裾、蒼

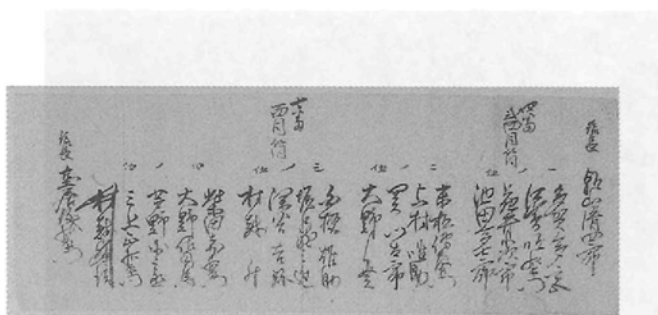
杜川裾、城下浜の四カ所に砲台を建設。

【内容】大砲隊の隊員一覧。役職及び氏名。

【内容】砲兵隊の各砲臺の親員の氏名一覧。

一冊 半冊 一四・一・五〇三・八

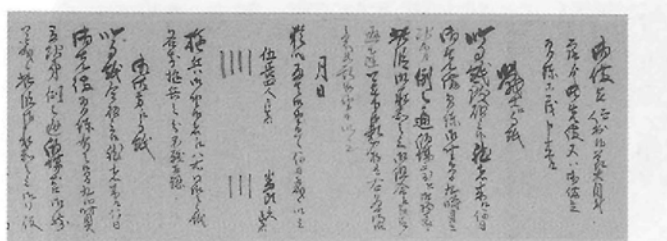
六―5 砲兵隊名簿



一紙 半紙二ツ切 一三・五×三七・八
 【内容】砲兵隊の各隊ごとの隊員の氏名一覧。

【内容】大砲隊の隊員一覽。對稱及び五宮。
 井田藩、越中藩の四ヶ所ニ歸合き藝藝。
 【備考】文久三年（一八六三）三月、今川藩お天香山藩、志田藩、
 一册 一五・二×五八・一

六-6 軍中への手紙の書き方見本



一紙 一三・七×五一・三

【内容】 戦士への手紙の書き方見本（ひな形）と御供方への手紙の書き方見本（ひな形）。

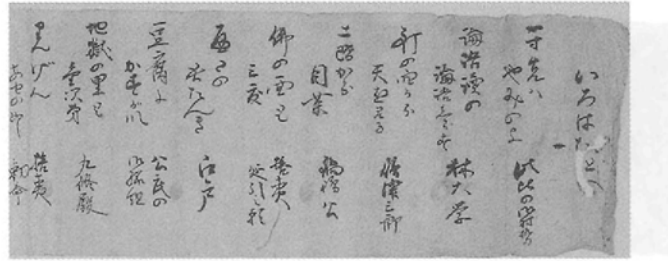
部類・題目「式」の。

【内容】 ひな形は式の要諦を、先祖の御方風範を公衆の善き人徳を御供方に辨せしむることには、式。

【編次】 舞末、今古新お聞草紙（書写研）のり式、新編舞末、お一冊 一冊・其×一五五・ハ

六-7 ひな形の手紙

六一七 いろはたとへ



一紙 一四・九×一五五・五

【備考】幕末、今治藩は倒幕側（新政府軍）にいたが、幕長戦争では積極的に戦をすることはなかった。

【内容】いろはがるたの要領で、当時の時代風潮や公武の著名な人物を諧謔・風刺したもの。

（見本（七））

【内容】将士への手紙の書き式見本（一〇）と、陣場への手紙の書き式見本（一一）と、五二・二二。

六一〇 軍中への手紙の書き式見本

七 その他

七-1 覚

一枚 一五・三×一〇・〇

【内容】寛政八年の覚書。

七-2 文政十年書状

一紙 一六・五×三九・〇

【備考】冒頭「去歲以来支配之儀」文末「文政十年亥年 四月晦日」

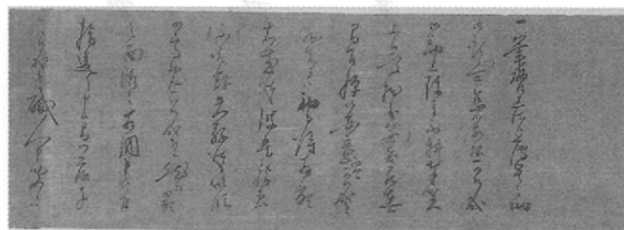
◎意を配け「文書状」

【内容】式日コ、既コテ御台御門コ枝面「コ新口城、全委キセヨ」ト云

【備考】一四頁十八日 新口藩大御 入彦（五明）

一冊 一四・二×式式・二

七-3 江嶋吟右衛門宛書簡



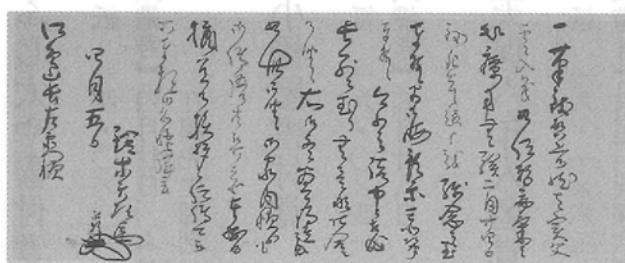
一紙 一四・二×九九・二

【備考】「四月十八日 滝口新太郎 久要（花押）」

【内容】先日、初めて吟右衛門に対面した滝口が、今後よろしくとの意で遣わした書状。

七-4 江嶋長左衛門宛書簡

十一-9 諸賞書油簡三封



一紙 一六・三×四二・八

【備考】 差出人「鈴木矢治衛門 四月五日」 包み紙「江嶋長左衛門様」

鈴木矢治衛門

【内容】 実父死去のこと。

小謝詞茶田

大寺忠入

十一-6 書簡手紙

其本一冊 謝本 通稱 一三・六×一六・一六

七―5 書簡手控

写本一冊 横本 仮綴じ 一三・六×一九・二 六丁

七―6 ふじ太や書付覚

一紙 一四・〇×一六・一

【備考】四月廿日 ふじ太や忠太

江嶋先生御判

七―7 小橋屋書付覚

一紙 一六・〇×四一・八

【備考】五月廿八日 小橋屋栄助

七―8 天保六年人名覚

一紙 一六・一×六三・三

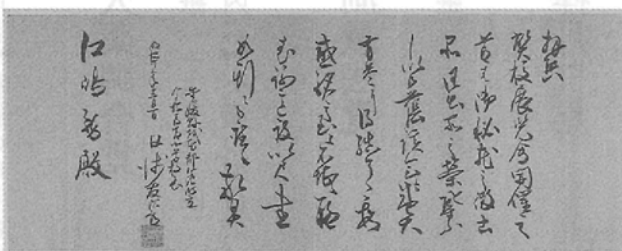
【備考】末尾「天保六未歳 十一月廿三日」

七―9 諸覚書断簡三枚

【備考】包み紙あり。「道具目録」

七-10 今治尋常小学校校長書簡

一冊 一六・〇×二八・〇



一紙 二〇・一×五二・三

【翻刻】(末尾)「明治卅三年十二月一日／愛媛県越智郡今治町立／今治

尋常小学校長／日浅友次郎／江嶋務殿」

【内容】明治三十三年に、同校で開催された展覧会に、江嶋家文書が出
品された際の礼状。江嶋家文書が展示されたことを示す資料。

七―11 相組申合

写本一冊 横本 共表紙 八・五×一三・三 一五丁 墨付三・五丁

【内容】相組の申し合わせ帳。

七―12 火薬調合覚

一紙 一六・五×四二・九

【内容】火薬の調合表。

七―13 測量法覚

一紙 二七・〇×一九・一

七―14 祥月日覚

一紙 一六・〇×二八・七

品を詳大欄の詳料。其御家又舊は置示ち付たことなき書料。

【内容】即前三十三平の、同刻の開辦を詳大欄書料、其御家又舊は出

學常小学対列ノ日表式式油ノ其御家類

【附註】(未刻)即前出三平十二日一日ノ受刻其御家類ノ御立ノ全

一冊 一〇・一×五二・三

七 | 15 覚

一紙 一五・六×二四・六

七 | 16 覚

一紙 一四・四×八・六

【備考】豊後船井の木村正育の資料。

七 | 17

三月十三日書付

書簡用紙賞書

一紙 一五・一×一四・三

【筆迹】源安房(野人)

【成立】西十二月

七 | 18

標着船検証次第書

一紙 二七・六×三四・三

一冊 一四・二×二二・二

七 | 19 賞

七―19 覚

一紙 一四・七×七・九

七―20 覚書

一紙(二枚) 一九・五×一〇・七

【成立】西十二月

【筆者】郡役所(役人)

【備考】三百十壹番ノ一丁錢 面目也

七―21 書簡用語覚書

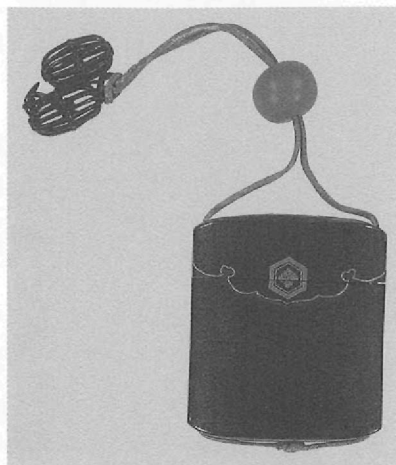
一紙 一五・九×三・九

七―22 覚

一冊 一五・六×二四・六

七―23 覚

七
一
22 印籠等三個



(表)



(裏)

七
一
23 未使用短冊十枚

永野文庫目錄

◎ 版本

【凡例】書名・本型（大は大本、半は半紙本、中は中本、横は横本、本型をもっておおよそのサイズがわかるので、サイズ記載は省略）・表紙色・丁数（必要に応じて）・外題・内題・内題下署名・編著者・刊記（刊行年次と書誌の必要事項のみ）・備考の順

愛媛県衛生医務例纂

中一卷一冊 黄表紙 一九九丁

外題 愛媛縣衛生医務例纂（後ペン書き）

内題 愛媛縣医務例纂

内題下署名 讚岐 梶原虎三郎纂輯

編著者 梶原虎三郎

刊記 讚岐高松 梶原氏蔵版

備考 明治一六年官省布達達書による編集

弗氏生理書

半七卷七冊 黒

外題 弗氏生理書 坪井為春 小林義直 同訳

内題 弗氏生理書

内題下署名 坪井為春 小林義直 同訳

編著者 文部省

刊記 明治八年七月

備考

産婆論

中一冊(卷七のみ) 活字本百九頁

外題 朱氏 産婆論 東京府病院編輯 明治十一年十一月出版 七

内題 産婆論卷之七

内題下署名 小林義直 山崎元脩 訳

編著者 東京府病院

刊記 明治十年六月十二日版權免許

備考

産論翼

半一冊(乾のみ) 薄縹色 四十二丁

外題 産論翼 乾

内題 産論翼乾之卷

内題下署名 阿州医官賀川玄迪子啓甫著

編著者 賀川玄迪

刊記 平安济世館蔵版

備考 序 安永乙未孟夏 柴邦彦

◎題本

医事新聞

中十三冊 (二一・二三・二四・二五・二六・三三・三六・三七・三八・四〇・四一・四二・四三のみ) 活
字本

明治一三年一月一五日から明治一四年八月一五日まで (毎月一五日発行)
医事新聞社発行

独醉医談

半一巻一冊 薄綴色 七〇丁

外題 独醉医談 (直書き)

内題 独醉医談

内題下署名 丹後田辺 吉見良子庸著

編著者 吉見良子庸

大刊記 文化九年壬申夏発兌

浪花書林 大野木市兵衛他二軒

備考 太田元貞才佐父の序

繆爾列氏虎烈刺論

中一巻一冊 黄色 六六丁

外題 繆爾列氏虎烈刺論 小林義直閱 横井俊蔵識 全

内題 繆爾列氏虎烈刺論

内題下署名 英国 戎繆爾列 原撰・日本備後 小林義直 校閲・同 三河 横井俊蔵

訳述

編著者 横井俊蔵

刊記 明治十二年七月九日 英蘭堂蔵版

備考

保齒新論

半二卷二冊 黒 七十五丁

外題 保齒新論 高山紀斎述

内題 保齒新論

内題下署名 東京 高山紀斎述

編著者 高山紀斎

刊記 明治十四年六月廿五日出板

有心堂藏版・英蘭堂

備考

校正方輿輓

大四卷四冊 水浅黄色 百三十三丁

外題 校正方輿輓

内題 校正方輿輓

内題下署名 桂里有持先生口授・門人 奥州盛岡八谷文恭子良筆受

編著者 桂里有持

刊記 文政庚寅 春園藏版・京 吉田屋治兵衛以下二軒

備考

図書機関

用藥須知後編

半一冊(卷一のみ) 白茶に雲竜 三十七丁

外題 用藥須知後編

内題 用藥須知後編

内題下署名 平安 恕庵松岡玄達成章著

編著者 松岡恕庵

刊記 盧橘堂・橘枝堂

備考 序 宝曆戊寅 藤維寅

脈学輯要

大三卷三冊 縹色 七十二丁

外題 脈学輯要(後ペン書き)

内題 脈学輯要

内題下署名 東都 丹波元簡廉夫一著

編著者 丹波元簡

刊記 萬笈堂英英吉

備考 萬笈堂による再刷

難經本義

大六卷三冊 表紙破損 丁数不定

外題 難經本義(後墨書)

内題 難經本義

内題下署名 許昌 滑壽著

編著者 滑壽

刊記 正保五戌子歲初夏吉旦 京寺町蛸薬師前敦賀屋久兵衛刊行

備考 付訓和刻本。書き込み多し。

難經本義諺解

大十二卷十二冊 薄縹色

外題 難經本義諺解

内題 難經本義諺解

内題下署名 洛下 法橋 岡本為竹一抱子 編輯

編著者 岡本一抱

刊記 宝永三歲次丙戌秋 池田屋三郎右衛門以下二軒

備考

七新葉

半内三卷三冊 黄に卍つなぎ 百十一丁

外題 七新葉

内題 七新葉

内題下署名 佐渡 凌海司馬虧公損 著

編著者 司馬凌海

刊記 文久二壬戌孟春 尚新堂藏・秋田太右衛門他八軒

備考

田漢院蔵書

日講記聞原病学各論

半十八卷十五冊(十二・十五・十六欠) 縹色

外題 日講記聞原病学各論

内題 日講記聞原病学各論

内題下署名 大阪府病院教師 蘭医 越尔蔑噠斯 著

編著者 越尔蔑噠斯

刊記 大阪府病院蔵版・書籍会社製本

備考 明治九年一月より

新纂薬物学

半五卷五冊 縹色に卍つなぎ

外題 新纂薬物学 樫村清徳纂輯

内題 新纂薬物学

内題下署名 東京 樫村清徳纂輯

編著者 樫村清徳

刊記 明治十年十一月新刊 格致学会蔵版・英蘭堂

備考

叢桂亭医事小言

半八卷七冊(卷五欠) 黄色

外題 叢桂亭医事小言

内題 叢桂亭医事小言

内題下署名 原南陽先生口授・門人 水戸 大河内政存筆記

編著者 原南陽

刊記 水戸 須原屋安次郎以下三軒

備考 明治刷り

敏氏薬性論

中四卷三冊(卷一欠) 縹色

外題 敏氏薬性論 足立寛訳補

内題 敏氏薬性論

内題下署名 独逸 敏都氏原著・日本 足立寛訳補

編著者 足立寛

刊記 明治八年四月 仁静学舎蔵

明治九年二月九日 足立寛蔵版

備考 英蘭堂による後刷り

華氏解剖摘要

中九卷八冊(卷二欠) 鼠色になでしこ

外題 華氏解剖摘要

内題 華氏解剖摘要

内題下署名 村上典表 訳述

編著者 村上典表

刊記 明治十年十月刊行・文海堂蔵版

備考

日本薬局方

活字本 明治十九年七月 東京医事新誌局出版 二神寛治

玄治藥方口解

横一卷一冊 薄縹色 百三十七丁

外題 玄治藥方(後ペン字)

内題 玄治藥方口解

内題下署名 なし

編著者 岡本玄治

刊記 明曆貳丙申歳季秋日 中尾市郎兵衛板行

備考

製劑備考

中二卷一冊(卷下欠) 黒

外題 製劑備考 乾

内題 製劑備考

内題下署名 常陽 室町温興 纂輯

編著者 室町温興

刊記 明治癸酉仲春 応機楼蔵・英蘭堂

備考

外科手術

半二卷二冊 黒

外題 外科手術

内題 外科手術

内題下署名 田代基徳 纂輯

編著者 田代基徳

刊記 明治六年五月 隆々亭蔵・英蘭堂

備考

難病自療

半二卷二冊 濃茶に菊

外題 難病自療

内題 難病自療

内題下署名 東京起療病院長 後藤昌文 関・男 昌直 著

編著者 後藤昌直

刊記 明治十五年六月出版 後藤氏蔵版

備考

暴病管見

半一卷一冊 水浅黄

外題 暴病管見 完

内題 暴病管見

内題下署名 東都閻閻薩州田宮尚施撰

編著者 田宮尚施

刊記 安政戊午

備考

虎列刺病療法備考

中一冊 海老茶

外題 柏原謙益編集 虎列刺病療法備考 完

内題 虎列刺病療法備考

内題下署名 なし

編著者 柏原謙益

刊記 明治十一年二月 博濟舎蔵・岡田茂兵衛以下二軒

備考

小刻傷寒論

中一冊 薄縹色

外題 傷寒論

内題 小刻傷寒論

内題下署名 なし

編著者 香川修庵

刊記 文政六癸未年仲冬再板 柏原屋清右衛門他

備考 伊藤東涯の序。書き込み、付箋多い。

診断捷徑

中三卷三冊 黒

外題 診断捷徑 岡玄卿

内題 診断捷徑

内題下署名 独乙 ハーゲン氏著・日本 岡玄卿訳

編著者 岡玄卿

刊記 明治十一年二月出版 中洲書堂蔵板・英蘭堂

備考

傷寒論輯義

大七卷十冊 縹色

外題 傷寒論輯義

内題 傷寒論輯義

内題下署名 東都 丹波元簡廉夫 学

編著者 丹波元簡

刊記 文政壬午初夏 英大助他

備考

眼科錦囊

大四卷四冊

黄色

外題

眼科錦囊

内題

眼科錦囊

内題下署名

東武 本庄俊篤士雅 著

編著者

普一本庄

刊記

天保二年辛卯晚夏 芳潤堂・須原屋源助他

備考

続眼科錦囊

大二卷二冊

黄色

外題

続眼科錦囊

内題

続眼科錦囊

内題下署名

東武 普一本庄俊篤士雅 著

編著者

普一本庄

刊記

天保八年丁酉晚夏 芳潤堂・須原屋源助他

備考

内題下署名

内題

外題

中一冊 新整

小段書家論

続医断

大二卷一冊 白茶

外題 続医断 全

内題 続医断

内題下署名 長門医官 賀屋敬恭安 著

編著者 賀屋敬恭安

刊記 文化八年辛未八月 丘本嘉七 堺屋伊兵衛

備考

黴瘡秘録

大二卷二冊 薄縹色

外題 黴瘡秘録

内題 黴瘡秘録目録

内題下署名 海寧陳司成九韶甫著

編著者 海寧陳司成九韶甫

刊記 享保十年乙巳十一月穀旦・安永三年甲午三月再板・戸倉屋喜兵衛梓

備考

医方口訣集

大二卷二冊 水浅黄

外題 増補医方口訣集 再板

内題 なし

内題下署名 なし

編著者 不明

刊記 宝曆四甲戌年孟春 重彫・村上勘兵衛 丹波屋甚四郎 本屋又兵衛

備考 伝説上の名医、土佐道寿の「新増愚按口訣」と北山友松子の「北山友

松子増広口訣」とを、編集合刻したもの。

微癘新書

大二卷二冊 黄色

外題 微癘新書

内題 微癘新書

内題下署名 相州医士 片倉元周深甫 著

編著者 片倉元周

刊記 天明六年丙午十月 和泉屋金右衛門以下二軒

備考 天明七年五月の丹波元簡の序があり、刊記はにわかには信じがたい。

医方集解

大二卷二冊 水浅黄

外題 重刊 医方集解

内題 医方集解

内題下署名 休寧訊庵汪昂著輯

編著者 汪訊庵

刊記 享保十三戊申孟春良辰 吉野屋重郎兵衛刊行

備考 田中素行が浪花の得中堂で訓を施したもの

内題下署名 又門洞官 寶曆癸卯著

内題 秘笈

代題 秘笈 全

入二卷一冊 白紙

秘笈

脈語

大二卷一冊 白茶 三十七丁

外題 脈語序 (後ペン書き)

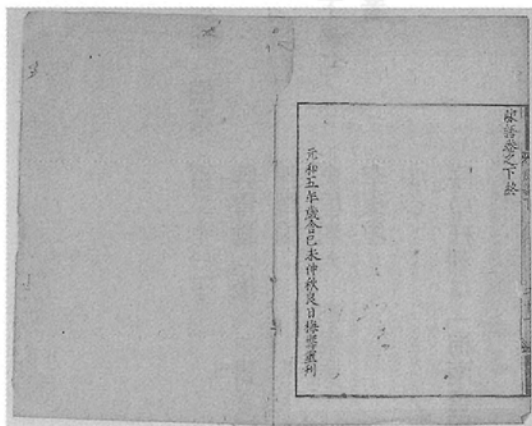
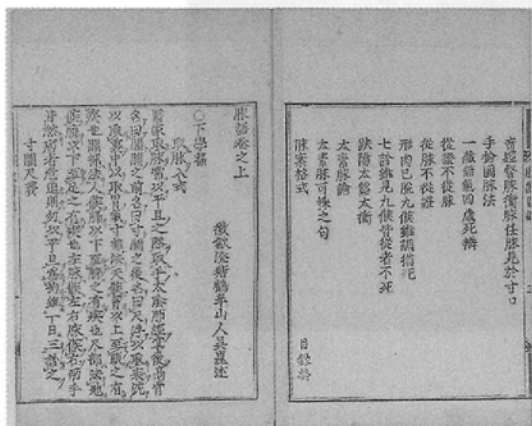
内題 脈語

内題下署名 徽欽澄塘鶴臯山人吳崑述

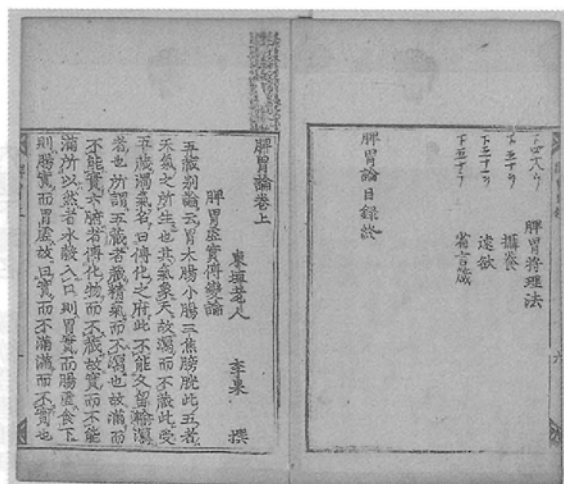
編著者 吳崑

刊記 元和五年歲舍己未仲秋良日 梅壽重刊

備考 梅壽刊行物



脾胃論



大三卷一冊 濃茶

百二十一丁

外題

脾胃論 (後ペン書き)

内題

脾胃論

内題下署名

東垣老人 李杲撰

編著者

李東垣

刊記

なし

備考

序の柱刻に「梅南書屋」

脾胃

大三卷一冊 白紙 三十一丁

内題

脾胃論 (後ペン書き)

内題

脾胃

脾胃論

脾胃論

傷寒六書

大六卷五冊 白茶

外題 傷寒六書

内題 新鐫陶節庵家藏傷寒六書

内題下署名 明 余杭節庵陶華 撰

編著者 陶節庵

刊記 寛永庚午建子之月 書林道伴加點新刻

備考 中野道伴の刊行物

飲病論

大一卷一冊 水浅黄

外題 飲病論 全

内題 飲病論

内題下署名 朴庵石崎淳古玄素著

編著者 朴庵石崎淳古玄素

刊記 宝曆四甲戌年孟春穀旦 書肆叢桂堂 梅村宗五郎

外科通論

半一冊(卷四のみ) 水浅黄

外題 外科通論 四

内題 外科通論

内題下署名 佐藤進

編著者 佐藤進

刊記 明治九年八月 佐藤尚中藏版・英蘭堂

尺牘双魚

大一冊 (卷五・六のみ) 水浅黄

外題 尺牘双魚 三

内題 新鐫増補較正寅幾熊先生尺牘双魚

内題下署名 なし

麻疹精要

大一卷一冊 だいだい色

外題 鼈頭附方 麻疹精要 全

内題 麻疹精要

内題下署名 清 張邊路玉 著

編著者 張邊路玉

刊記 寛政九丁巳九月増補再刻 敦賀屋九兵衛

備考 浪花の上月専齋が点を付けたもの

保赤全書

大二卷二冊 縹色

外題 保赤全書

内題 保赤全書

内題下署名 庠生 管藤編輯

編著者 管藤

刊記 なし

備考 和刻本

医方大成論諺解

大一冊(卷一・二のみ) 縹色

外題 医方大成論諺解(後ペン書き)

内題 なし

内題下署名 なし

増訂本草備要

中二卷二冊 薄縹色

外題 増訂本草備要

内題 増訂本草備要

内題下署名 休寧訊庵汪昂著輯

編著者 汪訊庵

刊記 享保十四巳酉七月穀旦

植村藤治郎以下二軒

蘭考 山口素誠の録

蘭書考 本川原

内題下署名 星宿 本川原

内題 蘭考式

校題 蘭考式

中一巻一冊 黄土田

蘭考式

蘭療方

中一卷一冊 黄土色

外題

蘭療方

内題

蘭療方

内題下署名

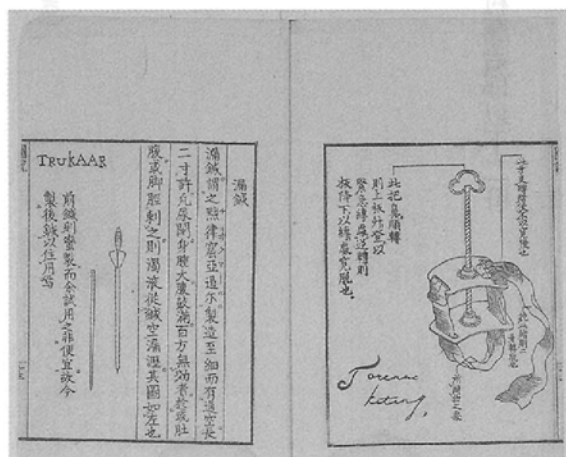
皇都 広川原

編著者

広川原

備考

山口素絢の絵



蘭療藥解

中一卷一冊 黄土色

外題 蘭療藥解 全

内題 蘭療藥解

内題下署名 皇都 広川原

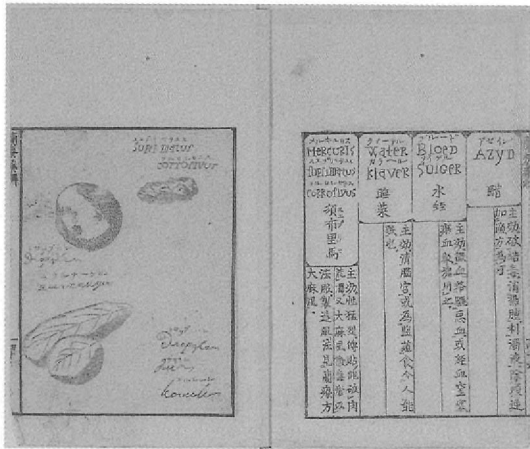
編著者 広川獬

刊記 文化三年丙寅夏六月

備考 藤若子の絵 瑶池斎蔵・林喜兵衛発行

対五未対蘭藥解

大三巻三冊 蘭藥



校正宋板傷寒論

大三卷三冊 濃茶

外題 校正宋板傷寒論

内題 校正傷寒論

内題下署名 なし

編著者 浅野徽元甫

刊記 拙庵藏 天保十己亥年 伊丹屋善兵衛他

備考

病名彙解

半七卷八冊 茶布目

外題 病名彙解

内題 病名彙解

内題下署名 江南 草医 桂洲甫

編著者 桂洲甫

刊記 梅村弥右衛門版／植村藤右衛門刊

十四経発揮鈔

大十卷十冊 縹色

外題 十四経発揮鈔

内題下署名 高野山就安斎玄幽／門人谷村昌安斎玄仙纂輯

編著者 谷村昌安斎玄仙

刊記 万治四年初夏吉旦 柳馬場通二条下町 吉野屋権兵衛板行

備考 入れ木による後版

外科正宗

明治十二年四月出版 養徳堂藏

大四卷四冊 標色 新書種 吳谷川即台題

外題 不審 外科正宗 三ノ下 厚書・日本 二節首種 吳谷川即台題 同飛

内題 新刊外科正宗

内題下署名 崇川 陳実巧仁父纂著 吳谷川即台題 同飛

中編著者 源元凱

普濟刊記

旧板寛文癸卯八月 新鐫寛政辛亥四月 芳蘭邊藏

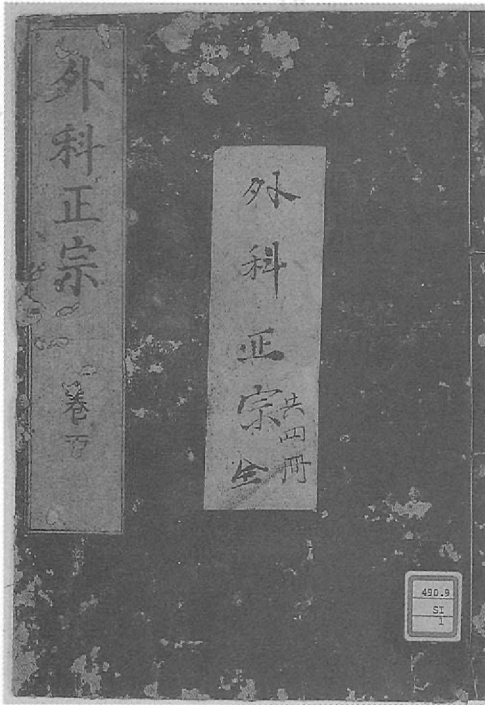
備考

寛文版が天明の火災で焼けたので、新刻したもの

安永式題千巻袋

甲賀版

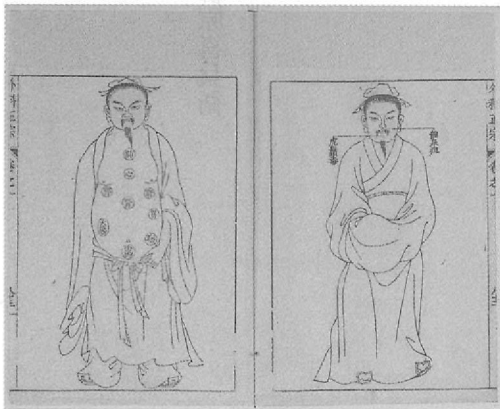
重正



森谷景種

半寸巻八冊 茶巾目

大対



病名彙解

半七卷八冊 茶布目

外題 病名彙解

内題 病名彙解

内題下署名 江南 草医 桂洲甫

編著者 桂洲甫

刊記 寛政五癸丑歳二月再版・京都 野田藤八・大坂 柳原喜兵衛

備考 貞享版の再版

重訂古今方彙

横一巻一冊 油引き

外題 重訂古今方彙(後ペン書き)

内題 なし

内題下署名 なし

編著者 甲賀通元

刊記 安永九庚子春発行

備考 望月三英の序の大意ヲ撰ハシテ其ノアノノヲ撰テシヨメ
日蓮書文卷四八頁 海嶽書院辛亥四月 芝園堂藏

普徠氏組織学

中三巻三冊 黒紙五冊

外題 普徠氏組織学 三浦省軒 長谷川順治郎 同訳

内題 普徠氏組織学

内題下署名 独逸 フライ氏 原著・日本 三浦省軒 長谷川順治郎 同訳

編著者 三浦省軒 長谷川順治郎

刊記

明治十二年四月出版 養源堂蔵版

新式化学

中十卷九冊(卷八欠) 黒

外題 新式化学 太田雄寧訳纂

内題 新式化学

内題下署名 東京 太田雄寧訳纂

編著者 太田雄寧

刊記 明治十年四月新鐫

備考 太田氏蔵版 英蘭堂発行

痘疹活幼心法

中二卷一冊 縹色

外題 痘疹活幼心法(後ペン書き)

内題 痘疹活幼心法

内題下署名 清江久吾轟尚恒著

編著者 清江久吾轟尚恒

刊記 なし

備考

題名

「紫口 太田雄」より「苦規 太田寛」の字

内題

取説編明八頁下三番四行

編著者

文外二二頁下二頁原版 咸治二二〇年五月再鐫

内題下署名

宇田川勲著

備考

謝表 宇田川式主宛紙・門人 後出 蕨指對士謝筆

刊記

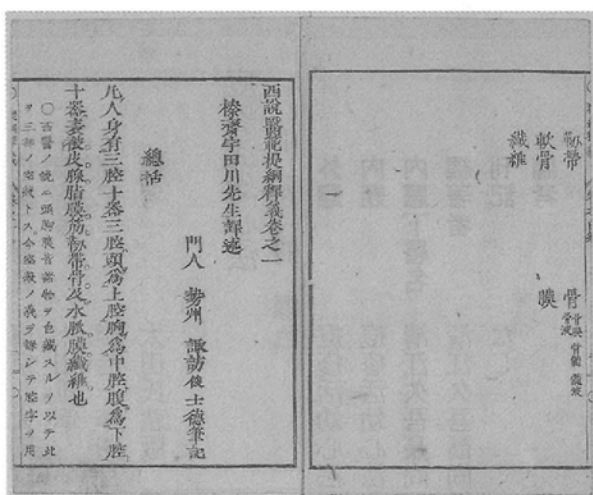
西條河津對隣傳券

備考

代題 河津對隣

大三卷三冊 よひ茶

西説医範提綱積義



大三卷三冊 えび茶

外題 医範提綱

内題 西説医範提綱積義

内題下署名 榛齋宇田川先生訳述・門人 勢州 諏訪俊士德筆記

編著者 宇田川榛齋

刊記 文化二乙丑年七月原刻 弘化二乙巳年正月再刻

備考 須原屋伊八以下三都四軒

「紫石 杉田勤」と「若狭 杉田豫」の序

薄友小字

中十卷六冊 (巻八次) 黒

内題 薄友小字 大田親孝宛書

内題 薄友小字

西説医範提綱積義

漢文文書

大三卷三冊 三えび茶

西漢文書

外題

医範提綱

内題

西説医範提綱積義 一冊

内題下署名

榛齋宇田川先生訳述・門人 勢州 諏訪俊士徳筆記

題挿本編著者

宇田川榛齋

刊記

文化二乙丑年七月原刻 弘化二乙巳年正月再刻

内題

須原屋伊八以下三都四軒

備考

「紫石杉田勤」と「若狭 杉田豫」の序

一 中四冊 (巻一・題詞・附録・五百篇の巻)

全体新論

大三卷二冊 (巻坤欠) 鷺色

外題

全体新論

内題

全体新論

内題下署名

西国医士合信氏著 南海陳修堂同撰

編著者

合信

刊記

安政四丁巳晩冬 越智蔵版

内題下署名・題詞・附録・五百篇の巻

【凡例】書名・本題 (大中小本) 半冊半冊本 / 中中小本 / 附録本 / 表紙色・丁数 (必要に依りて) ・外題・内題

◎ 写本

◎写本

【凡例】書名・本型（大は大本、半は半紙本、中は中本、横は横本）・表紙色・丁数（必要に応じて）・外題・内題・内題下署名・編著者・備考の順

婦人至宝書

半一巻一冊 縹色

外題 婦人至宝書（後ペン書き）

内題 婦人至宝書

内題下署名 栄智謚

編著者 栄智謚

謬氏原生学

中四冊（巻二・筋篇・神經篇・五官篇のみ）

外題 謬氏原生学

内題 原生学

内題下署名 なし

腹証奇覽後編

半二巻一冊 橙色

外題 腹証奇覽後編 全一冊

内題 腹証奇覽後編

内題下署名 湖南・稻葉克文礼父著

編著者 稻葉克文礼父

傷寒論

半一冊 白茶

外題 傷寒論 全

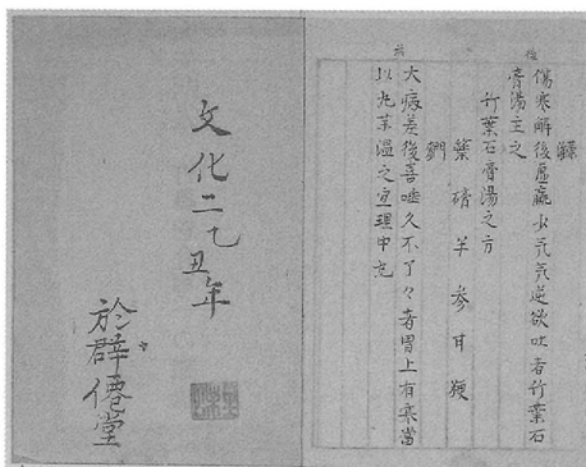
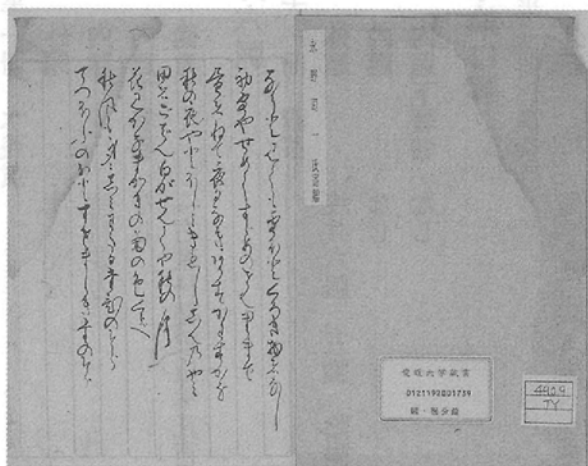
内題 なし

内題下署名 なし

備考 「文化二乙丑年 於辟僊堂」の識語

内題下署名 八首の俳諧発句あり

内題 なし



産科要方

半一冊 水浅黄

外題 産科要方 全

内題 産科要方

内題下署名 なし

備考 「右産科発蒙拔萃凡百二方 大矢門人 竹鼻恕介写」の識語

浅井六脈

大一冊 濃茶

外題 浅井六脈 五臟 陰陽

内題 なし

内題下署名 なし

傷寒論口解

半一冊 濃茶

外題 傷寒論口解 (後ペン書き)

内題 なし

内題下署名 なし 百の辨證案(白紙)

備考 「文外」二五半 兌報學堂」の題語

内題下署名 なし

内題 なし

内題 辨寒論 全

半一冊 白茶

謝寒論

沾滴医言

半四卷一冊 橙色

外題 沾滴医言

内題 沾滴医言

内題下署名 紀伊 中川恕為仁述・越後門人

編著者 中川恕為仁 小林須丈録・日向同 安井格安 校正

瘍科方選

半一冊 共表紙

外題 瘍科方選

内題 なし

内題下署名 なし

蘭考 〔宝暦三年(西暦十一月五日)の蘭語

蘭考考 蕨真更

内題下署名 なし

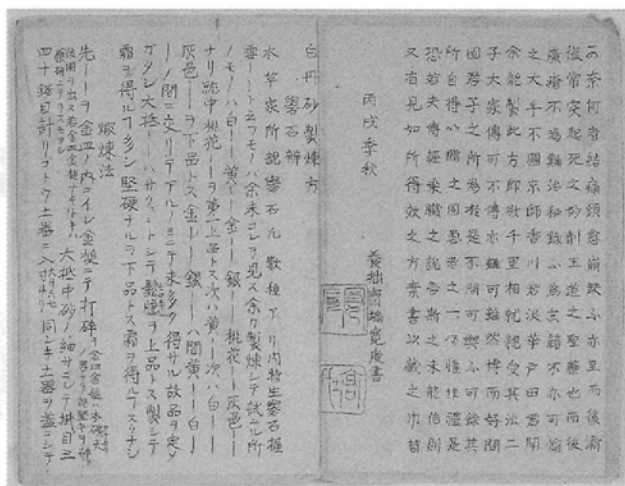
内題 白丹心選載式

代題 白丹心選載式 兩中屋 齋司

半一冊 共表紙

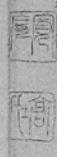
白丹心選載式

白丹砂製鍊方



丙戌季秋

養拙齋藏覽書



半一冊 共表紙
 外題 白丹砂製鍊方 附中風 論治
 内題 白丹砂製鍊方
 内題下署名 なし
 編著者 埴寛度
 備考 「宝曆二年西十一月五日」の識語

古齋列言
 半四卷一冊 野田
 長巻
 古齋列言

標有堂方集他

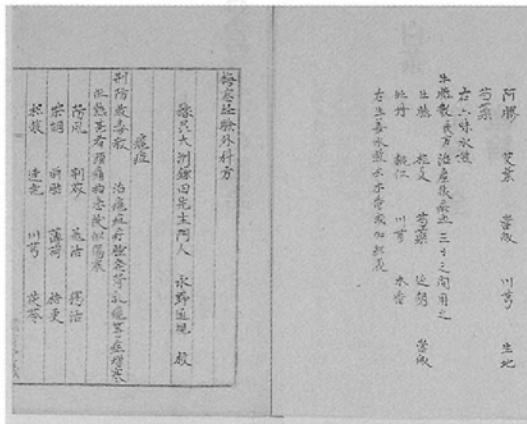
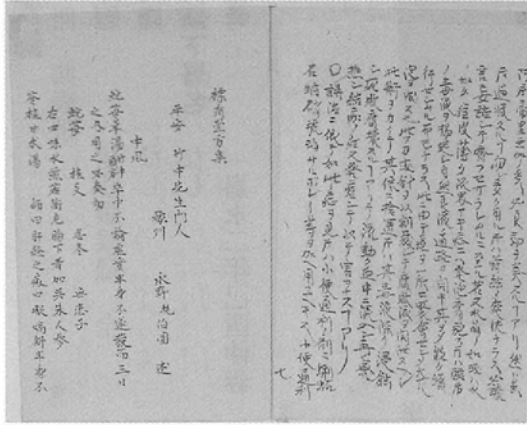
半一冊 共表紙

外題 標有堂方集 (後ペン書き)

編著者 永野通規

備考

外題『標有堂方集』以下、数種の医学書を綴じた物。筆遣いも他筆が混じり、一人のまとまった著述ではない雑纂である。但し、「標有堂蔵」の柱刻を持つ専用料紙を一部用いることから、標有堂すなわち七代目永野通規との関係は無視できない。編著者は書中に「平安 竹中先生門人 予州 永野規伯園」または「豫州 大洲鎌田先生門人 永野通規」などあることから推定して通規であろう。



秘法腹候録

半一冊 共表紙

外題 秘法腹候録 全

内題 なし

内題下署名 なし

備考 「嘉永二年己酉仲春 於一石舎写之」の識語

産論

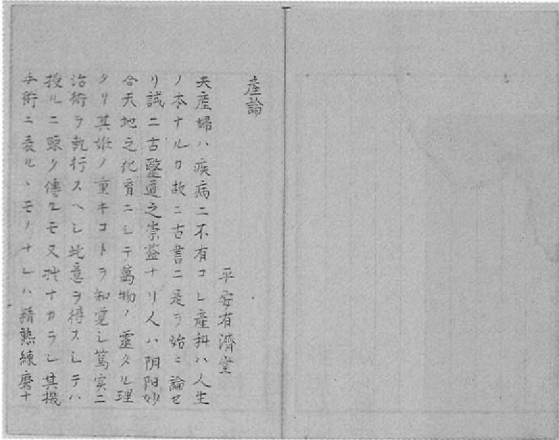
半一冊 白茶

外題 産論 全

内題 産論

内題下署名 平安有濟堂

編著者 賀川



産論 平安有濟堂
天産婦ハ 疾痛ニ不有コレ産抑ハ 人生ノ本ナルヲ故ニ古書ニ是ヲ始ニ論セリ誠ニ古醫道之學蓋ナリ人ハ 阴阳妙谷天地之化育ニシテ萬物ノ産タル理タリ其作ノ重キコトヲ知逆シ篤實ニ治術ヲ執行スヘシ此意ヲ得スシテハ授ルニ疎ク傳ヒモ又授ナカラシテハ本術ニ委レ、モノナルハ精熟練 慶子

醫百堂式集出

眼科方

半一冊 橙色

外題 眼科方 完

内題 眼科方

内題下署名 讚岐 三井良之元孺

編著者 三井良之元孺

編集・男 善之文卿 増補

癆瘵探蹟

半一冊 白茶

外題 癆瘵探蹟 全

内題 癆瘵探蹟

内題下署名 なし

編著者 天野俊英子雲甫

原生物学

中一冊 (卷二のみ) 黒

外題 原生物学 (後ペン書き)

内題 原生物学の基礎

内題下署名 なし

外科通論

中一冊 (卷一のみ) 青

外題 外科通論 第壹

内題 外科通論

内題下署名 なし

内科学入門

編著者 備考

内外医科学入門

中一冊 白茶

外題

内外医科学入門 全

内題

内外医科学入門

内題下署名

高独逸都 伊斯蒲尔仁屈 著・亜謨斯的兒達謨 漢越邊 訳

編著者

伊斯蒲尔仁屈

備考

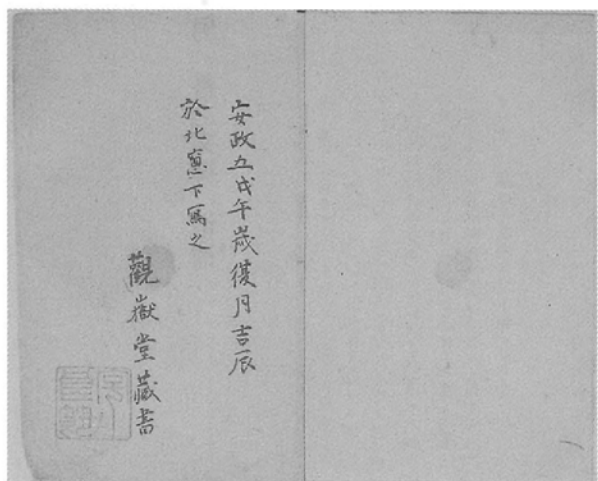
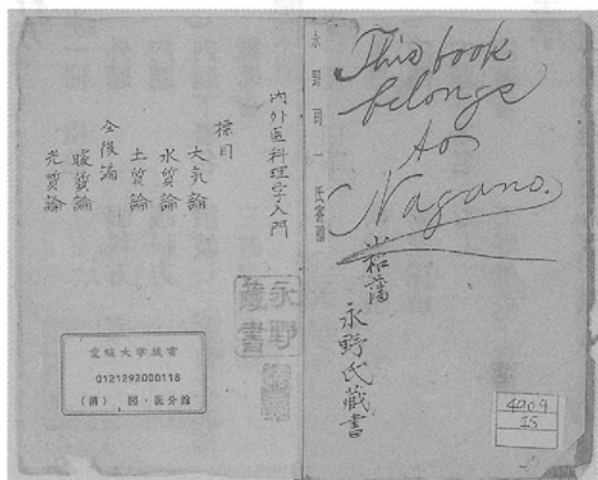
「小松藩 永野氏蔵書」「安政五戊午歲復月吉辰於北窓下写之 観嶽堂

内題

「蔵書」の識語

外題

内外医科学入門



瘍科瑣言奥義

半二卷二冊 橙色

外題 瘍科瑣言奥義 完 共二冊(上卷)

瘍科瑣言奥義下 瘍医活談篇卷之下 桂園高階先生口授(下卷)

内題 瘍科瑣言奥義卷上(上卷)

瘍医活談篇卷之下(下卷)

内題下署名 桂園高階先生口授(下卷)

編著者

備考

製鍊之法

半一冊 橙色

外題 製鍊之法 完

内題 なし

内題下署名 なし

編著者 柿原 共表紙

備考 元表紙「製鍊之実法 柿原家」

「柿原良造 越智重義」の識語

内題下署名 東証吉益式主書・門人 安五 田中証脚之著 行見 中津貞吉主筆

内題 薬道

代題 薬道

半一巻二冊 白茶

薬道

藥徵

半二卷二冊 白茶

外題 藥徵

内題 藥徵

内題下署名 東洞吉益先生著・門人 安芸 田中殖卿玄蕃 石見 中邨貞治子享

平安 加藤白圭子復 同校

編著者 吉益東洞 〔越前重隆一の鑑名
元長雄一鑿職之表忠 附題名〕

産科秘要

半一冊(上卷のみ) 共表紙

外題 産科秘要 上

内題 産科秘要

内題下署名 平安 蘭齋賀川先生口訣・同 蘭台賀川先生校正

編著者 賀川蘭齋

要職之法

蘭香

内題下署名 封國高朝式法口訣 (十卷)

内題 蘭香香

内題 蘭香香

内題 蘭香香

内題 蘭香香

内題 蘭香香

半二卷二冊 附送

藥料即言奥義

阿蘭陀治法総論

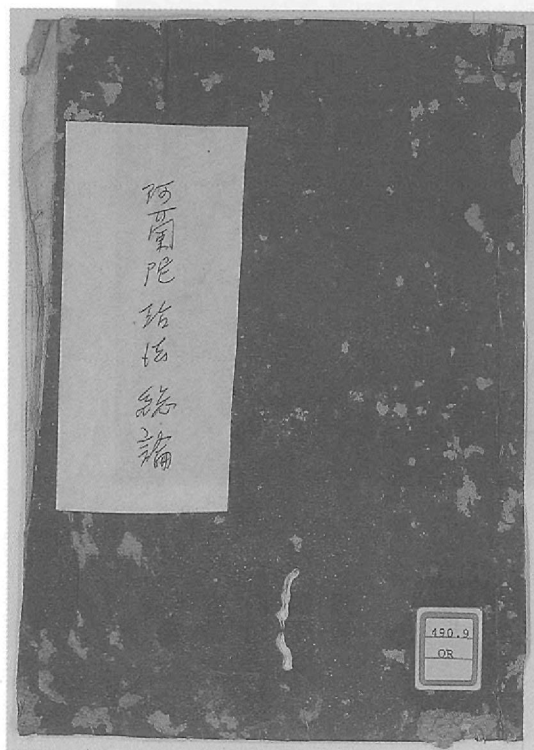
半一冊 縹色

外題 阿蘭陀治法総論 (後ペン書き)

内題 阿蘭陀治法総論

内題下署名 なし

備考 「文化」二丑春一月写 木村周輔の識語



阿蘭陀三書

〔本〕水戸 季冬日 古冊三冊(阿蘭陀)の自筆

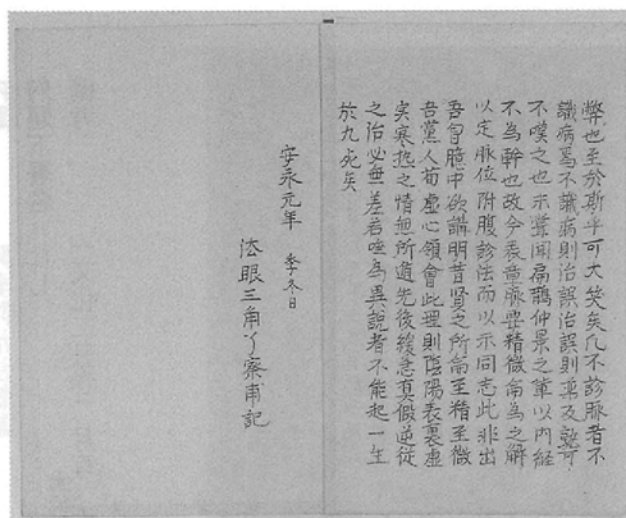
三冊(阿蘭陀)

ひ

ひ

阿蘭陀三書 全

扁鵲伝三角氏秘書



弊也至於斯乎可大笑矣凡不診脈者不識病焉不識病則治誤治誤則藥及藥可不嘆之也示葦間扁鵲仲景之筆以內經不為幹也改今表章脈學精微高為之解以定脈位附腹診法而以示同志此非出吾胃臆中欲講明昔賢之所當至精至微吾黨人苟虛心領會此理則陰陽表裏虛實寒熱之情無所遺先後緩急真假逆從之治必無差若嗚呼異說者不能起一生於九死矣

字永元年 季冬日

法眼三角了察甫記

大一冊 濃茶

外題

内題

内題下署名

編著者

備考

扁鵲伝三角氏秘書 全

なし

なし

三角了察甫

「安永元年 季冬日 法眼三角了察甫記」の自序

回蘭切書去録

半一冊 濃茶

内題

法眼三角了察甫記 (安永元年)

法眼三角了察甫記

濟美堂丸散方

半一冊 橙色

外題

濟美堂丸散方（後ペン書き）十日閣下

内題

濟美堂丸散方

内題下署名

なし

濟美堂方函

半一冊 白色

外題

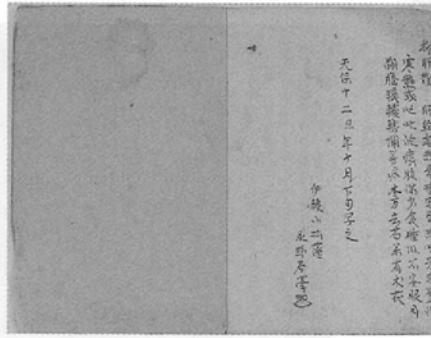
濟美堂方函

内題

なし

内題下署名

なし



宣子製剤記

半一冊 濃茶

外題

宣子製剤記

内題

宣子製剤記

内題下署名

なし

半一冊 橙色

外題

濟美堂方函

内題

濟美堂方函

内題下署名

門人 加賀池田廉子直校正

編著者

池田廉子直

備考

「八代 春沢」の付箋。

「天保十二年十月下旬写之 伊予小松藩

永野春沢」の識語

醫書

池田義之丞

内題下署名

紙面 池田義之丞 宣子・山崎 藤田重良 藤

内題

文政四年刊製剤記

外題

宣子製剤記 全一冊

半一冊 濃茶

解臙図賦

一冊 白紙

内題

宣正御願書

外題

宣正御願書

半一冊 橙色

外題

解臙図賦 全一冊

内題

文政四年解臙図賦

内題下署名

越前 池田義之冬蔵 撰著・山城 藤田守近長楨 参

編著者

池田義之冬蔵

訂

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

半一冊 白紙

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

〔大納言〕の鑑識

観嶽堂経方襦

半一冊 白茶

外題

観嶽堂経方襦 全 漢洋抜萃

内題

なし

内題下署名

なし

備考

半一冊 白紙

諸方の抜萃。「安政元甲寅十月閏写」「松山野間郡御代官津田半助 郡中え一部ツツ 贈る 五卷ナリ」の書き込み。

高美堂氏様式

「志喜園 確堂布衣」の識語

解説

本書には、愛媛大学附属図書館の所蔵する資料のうち、今治藩家老の江嶋家の文書である『江嶋家文書』、小松藩藩医の永野家『永野文庫』の目録を収めた。すなわち、東予関係の資料を合わせ収載することを意図したものである。以下、両資料について概述する。

江嶋家文書について

今治の江嶋家は初代為信（二六三五―一六九五）より始まる。為信は、生国が薩摩、育ちは日州飢肥（現在宮崎県日南市）、寛永十二年、飢肥藩伊東家藩士の江嶋為頼の三男として生まれるが、故あって明暦元年（一六五五）に妻子を残して出奔、浪人として諸国を放浪するうちに江戸に落ち着く。この浪人時代に当時流行しつつあった散文芸（仮名草子と呼ばれる）を執筆し、『身の鏡』『理非鏡』などのロングセラー、いくつかの兵法書を出版する。

『そして、為信は寛文八年、三十四歳にして今治藩に採用されることとなる。この間の事情については不明であるが、今治藩士小泉宣安の推挙により馬廻役として百石で召し抱えられたのは事実である。以後、功績をあげ、元禄六年（一六九四）に五百石の家老職にまでのぼりつめた。

その江戸留守居役時代に、当時流行の談林俳諧にも遊んだ。談林派総帥の西山宗因に評を乞うた『山水十百韻』は有名である。俳号は山水、西鶴が大阪で催した大矢数俳諧『西鶴大矢数』にも句が見える。そのため、岡西惟中や大淀三千風が今治の為信のもとを訪れている。今治を、いや愛媛を代表する文人であった。

また、産業界の面では、甘藷を今治にもたらしたのが為信と言われているが、その詳細は不明である。『時問』によれば、為信は元禄八年に江戸で六十一歳で逝去。墓は江戸の芝新銭座にあったとされるが不明。今治の海禅寺には遺髪塚が遺され、江嶋家一門の墓がある。

その江嶋家は明治にいたるまで今治にあり、今もその一族がお住みではあるが、江嶋家の文書は明治期に一度今治で展観されて以来、長らく愛媛の地にはなかった。とかく伝の不明なことの多い仮名草子作者のなかで江嶋為信の例は貴重であるの同時に、今治藩の家老職を務めた家の資料だけあって、かつての今治の姿を知る一級資料である。その江嶋家文書が長らく江嶋家の御子孫の手にあり、流失は認められるものの、運良く災禍を免れていることが判明したため、平成十三年七月、愛媛大学附属図書館デジタル・コンテンツ研究会の活動の一環として、愛媛大学附属図書館に寄託されることとなった。その内容については、目録本文を一覧していただきたいが、為信の自筆、系図から今治の行政資料までも含む価値ある文書であり、今後の活用が期待される。

【参考】

- ①真木虎雄『江島為信年譜』『江嶋家譜』『江嶋氏系図』
- ②星加宗一「俳人江嶋山水について」(昭和三十二年「愛媛の文化」第三十号)
- ③松田修氏「日州漂泊野人の生涯」(昭和三十八年「日本近世文学の成立」)
- ④岩波新古典文学大系「仮名草子集」
- ⑤管 宗次編集・武庫川女子大学国文研究室「江嶋家文書目録」(平成十一年)

江嶋家文書について

イ、面会時のご挨拶

江嶋家「水神文庫」の目録を拝見し、大変興味を覚えました。東洋閣の資料を拝見することや意図してはいたしません。本館には、愛媛大学附属図書館の所蔵する資料のほか、今治藩蔵書の複製品や、小笠原家蔵書など、

雑誌

永野文庫

永野文庫は、小松藩藩医永野家の直系に所蔵されていた古医学書と、歴代永野家当主の数人による記録類からなる。おもに江戸中期から明治にかけての版本と写本であるが、梅寿刊行の江戸初期の医学書や、蘭学関係のものも含まれている。平成四年に御子孫永野司一氏により愛媛大学附属図書館に寄贈された。

永野家の祖は徳永修理大夫で、代々小松領内大頭（おうとう）村に住居して、豪農として知られていた。以下、藩医としての永野家について略述する。医学としての初代は通昌、通称寿三で、兄善助の死により医をもって家督を継いだ。通昌は北川村に住み、飛鳥時代に建立された法安寺の跡地の荒地を開拓し、薬師寺を建立、高野山を勧請して千本牡丹で有名な永寿庵を建立、元文五年（一七四〇）に没した。この初代が薬師如来を本尊とする永寿院を建立したことは、その後の永野家を考える際に重要である。いわゆる、医学界は、仏教医学や民間医療、和氣と丹波両家による典薬医の旧式の医学から戦国期に大きく変動したと言われている。その立て役者が曲直瀬道三、玄朔親子であるが、この医学の特徴は当時最先端であった中国医学の積極的な導入であった。そのために、儒学などを修得する必要があるが、仏教から乖離しはじめていたのだが、その精神構造の底流としては旧来の仏教観を引きずっていた。江戸期の医師が、社会的身分としての法印に拘ったのはそのためであるし、剃髪が医師の一般の髪型であったのもそのためである。「儒医」と呼ばれる長髪の医師が現れるは、江戸中期の後藤良山を待たなければならぬ。すなわち、永野家初代も医学としては恐らくは中国医学を修得していたと思われるが、意識としては仏教と根強く結びついていたことに留意したい。

その永野家の二代目が芳通、通称昌庵で、初めて小松藩藩医に登用され永野姓を賜った。宝暦九年（一七五九）没。三代目が通音、通称昌庵、寛政六年（一七九四）没。四代目が通政、小松に居を移し、御番医、御側医師、十二石三人扶持、文政元年（一八一八）江戸勤番中に客死。五代目が通一、通称昌察、文化十二年（一八一五）に夭折。六代目通肅、通称寿仙、嘉永二年（一八四九）没。七代目が通規、通称春沢、号を仙園（伯園）、標有堂、京都の竹中秀四郎に就いて内科、外科、産科を修行。『標有堂方集』『初産治験録』の著がある。嘉永五年（一八五八）没。八代目通頴、通称善作、安政五年（一八五八）大阪で医学修行中に没。九代目通愷、通称良節、明治三十四年（一九〇一）没。十代目通

久、通称良準、『愛媛面影』の著書で知られる今治藩医・半井梧庵に医学を学び、後に東京大学南校でウイルソン、グリフスなどに就いて外国語を修得後、松山公立医学所勤務などを経て、小松で開業、明治三十五年（一九〇二）没。そして近代に至り、真平氏、司一氏と続いている。

初代の通昌が薬師寺を建立し、病の平癒を祈願したことと、十代目の通久が半井梧庵に学びながらも外国語を修得の後近代医学を修めたことをつきあわせて考えてみれば、永野家の歴史はそのまま医学史の歩みと軌を一にするものであって、愛媛の医学史のみならず、日本医学史を考える際にも今後大いに活用されるべきであろう。永野文庫は、まさに近代医学に産声をあげた日本医学の一面を物語る好個の文庫である。

【参考】

宮内孝夫「伊予小松藩医永野家系譜」（『伊予史談』百六十六号、昭和三十七年十月）

なお、本目録は平成十三年度愛媛大学大学院教育学研究科開講の「地方文学研究法」を利用し、相原裕美、下坂憲子、谷口みち佳、福田安典が作成した。

永野文庫

愛媛大学附属図書館 『江嶋家文書』『永野文庫』目録
(非売品)

平成14年 3月 発行

編集・発行

〒790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学附属図書館

印刷

四国工業写真株式会社

不許複製